

令和 7 年度

講 義 要 覧



アグリカレッジ福島

福島県農業総合センター農業短期大学校

目 次

	頁
農業経営部の教育計画	
Ⅰ 教育方針	1
Ⅱ 主要な教育事項	1
Ⅲ 専門教育を学ぶにあたって	
1 水田経営学科で学ぶにあたって	3
2 野菜経営学科で学ぶにあたって	3
3 果樹経営学科で学ぶにあたって	4
4 花き経営学科で学ぶにあたって	4
5 畜産経営学科で学ぶにあたって	4
Ⅳ 履修方法	
1 履修に関する基本事項	5
2 授業時間帯	5
3 休業日	5
4 授業時間数と単位の計算	5
5 教育課程と講師	5
6 履修計画	6
7 履修に関する注意事項	6
8 定期試験	6
9 単位認定及び進級認定、卒業認定	6
令和7年度農業経営部履修計画及び担当講師	7
令和7年度履修科目及び学校行事	9
令和7年度農業経営部外来講師一覧	10
10 実習－卒論研究学習	11
別表1 実践学習体系	13
別表2 実習計画	14
Ⅴ 講義要項	
1 共通教養科目	19
2 専門科目（全経営学科共通）	31
3 専門科目（水田・野菜・果樹・花き経営学科共通）	52
4 専門科目（水田経営学科）	59
5 専門科目（野菜経営学科）	66
6 専門科目（果樹経営学科）	72
7 専門科目（花き経営学科）	78
8 専門科目（畜産経営学科）	84
Ⅵ 年間行事	102

農業経営部の教育計画

I 教育方針

1 教育目標

実践的な農業の技術力と優れた経営力を備えた地域のリーダーとなる農業者を育成する。

2 教育の方向

- (1) 農業経営の実践に必要な知識及び技術に関する教育を行う。
- (2) 地域をリードする農業経営者に必要となる経営管理に関する教育を行う。
- (3) 国際的な視野に立ち農業情勢の変化に対応できる農業経営に関する教育を行う。

II 主要な教育事項

農業者として必要な実践能力を身に付けるため、以下の事項について学科ごとに講義・演習、実験、校外での研修を含めた実習を有機的に関連させながら農業経営に必要な知識、技術を習得する。

実践的経営シミュレーションを専門教育の柱に据え、学生が割り当てた農場区画（ほ場・ハウス、果樹、家畜等）において、生育や成長あるいは気象に応じた生産管理を実践するとともに、加工・販売までの一連の体験を通して農業経営の判断力を身に付ける。

1 一般的な教養に加え、農業経営に関する基礎的知識の習得

学生の動向や時代のニーズを踏まえ、基礎学力レベルに応じ、きめ細かな指導により学習意欲を高めるとともに、それぞれの分野における専門家や有識者を講師として教養科目を履修し、幅広い教養を身に付ける。

また、就農への動機付けと自家就農又は農業法人就職など進路に応じ、幅広く先進的な経営者から実践内容を直接見聞することにより農業経営の実践に必要なマネジメント能力を養成する。

2 農業に関する知識及び技術を習得

(1) 農業の基礎的知識及び技術の早期習得

非農家出身者や高校の農業課程以外からの入校生に配慮し、各学科に関する農学の基礎及び経営管理に関する基礎を入校当初から履修する。また、実習を通じて学科ごとに必要となる基礎的作業や農機具の使用法、更には栽培管理や飼養方法について習得する。

それぞれの地域で指導的立場にある農家において先進農家等留学研修を実施し実際に農家での生活や農作業を体験することで、農業経営全般についての理解を促進する。

(2) 専門的知識及び技術の習得

専門科目については、基礎から応用へと体系的に学習する。また、生産分野のみならず、加工技術や商品開発、更には農産物直売実習等を通じて地域産業6次化について学習する。

(3) 農業経営に必要な免許・資格の取得

農業経営を实践する上で必要となる免許や資格、法人への雇用就農時に求められる免許や資格を幅広く取得する。

3 経営シミュレーションによる総合的な実践力の習得

現場の課題をもとに、卒業論文テーマを設定し、自ら生産から販売まで一連のプロジェクトとして取り組み、経営シミュレーションの手法も取り入れながら総合的な農業経営を实践する力を習得する。

4 地域農業をけん引するために必要な知識の習得

農業経営を实践する上で必要となる地域資源活用法の習得や、地域内連携のために必要となるコミュニケーション能力について習得する。

5 国際化に対応した幅広い視野の習得

農業経営を实践する上では、国際化など農業情勢の変化に対応する必要があることから、先進的な経営者の実践事例の研究や海外農業の視察などを通して、幅広い視野を身に付ける。

6 農業短期大学校の位置付け

農業短期大学校は、農業改良助長法に基づいて都道府県が設置している農林水産省所管の施設である。その役割は、文部科学省所管の大学と異なり、卒業後すぐに農業経営を展開できる実践力を身に付けた農業者の育成にある。

このため農業経営部での学習は、実習を主体に専門的な知識と技能の習得に力点を置いており、農業は勿論、農業関係団体・企業などの幅広い職種にも十分に対応できる人材の養成を目指している。

また、学習内容は大学に準じて高い専門性を有するので、本校を卒業すると、国の人事院規則により文部科学省所管の短期大学卒業と同じ扱い（国家公務員採用時）とされている。

さらに、平成20年度からは学校教育法に基づく専修学校に位置付けられたことにより、本校を卒業後「専門士（農業専門課程）」の称号が与えられ、4年制大学の3年次等に編入学する試験を受験することができる。

Ⅲ 専門教育を学ぶにあたって

本校での2年間という限られた期間の中で、農業経営を実践できる知識と技術を身に付けるためには、受け身の学習態度ではなく、確固とした目的意識をもって勉学に励むことが大切である。

本校は、自ら問題意識を持ち、考えながら学習する主体的学習の場である。

講義は1学年では一般的な教養を高める教養科目、農業の基礎を幅広く習得する概論に加え専門分野の基礎を学習する専門科目からなり、2学年ではさらに詳しく専門分野を学習する経営各論等の専門科目から構成されている。

授業は、講義の他に演習、実験及び実習から成り立っているため、これらを関連付けながら総合的な農業経営の知識と技術を習得する。

1 水田経営学科で学ぶにあたって

水田経営学科では、土地利用型農業経営を実践するための高度な専門的知識や技術、経営管理等について学ぶとともに、実習や各種研修等を通じて実践力を習得する。

特に、土地利用型農業経営における近年の重要な課題である水田の有効利用を念頭に置き、田畑輪換や輪作体系について学ぶとともに、経営上不可欠な課題である省力化やコスト削減技術、消費者が求める安全・安心な農産物の生産、6次産業化に配慮した経営、スマート農業及びGAP（農業生産工程管理）の概要及び生産現場での対応等について学習する。

1学年では実習における多くの食用作物の栽培や加工を通して、基礎的な技術、観察力などを身に付ける。また、先進地研修や先進農家等留学研修等の実施により、実践的な経営感覚を養う。

2学年では稲作、畑作両分野のより専門的な講義と実習を一体的に履修し、水田の有効利用について高度な知識と技術を習得するとともに、卒業論文は稲作、畑作の選択制とし、栽培や調査研究を通して、それぞれの分野での高度な技術と経営感覚を醸成し、実践力を身に付ける。

2 野菜経営学科で学ぶにあたって

野菜経営学科では、県内で生産されている主要な品目を中心に、野菜栽培を行うために必要な知識や技術、経営管理等について習得し、本県野菜経営を担う人材を育成する。特に、省力化や高収益に関する知識や技術、消費者が求める安全・安心な農産物の生産、GAPの概要及び生産現場での対応について学習する。

これらの学習を効果的に実施するために、1学年では講義と実習を通して野菜栽培の基礎的な技術の習得と作物の生育の観察力を養成するとともに、先進農家等留学研修や県内研修等を通して先進技術を学習する。

また、2学年では、より専門的な講義と実習を通して野菜栽培について高度な知識と技術を身に付けるとともに、卒業論文や調査研究を通して、課題解決能力や技術力と経営感覚を醸成し、実践力を身に付ける。

3 果樹経営学科で学ぶにあたって

果樹経営学科では、県内の主要果樹を中心に果樹栽培に関する知識と技術を習得し、本県果樹産業を担う人材を育成する。特に、高品質・安定生産や省力化等の先進栽培技術、果樹農業の担い手として生計を成り立たせる経営管理能力、環境保全型農業や安全・安心な生産・管理技術を身につけ、将来にわたって持続可能な果樹経営を学ぶ。また、GAPに関する教育の実践により、卒業後にこの即戦力となる人材を育成する。

このため、1学年では講義や実習を通し、果樹に関する基礎的な知識や技術を習得するとともに、先進農家等留学研修や県内外の先進事例調査研修を通じて果樹経営と果樹産業の情勢を体感する。

また、2学年では、より専門的な講義や実習を通し実践力を身に付けるとともに、卒業論文調査研究を通じて、自らが考えて行動し課題を解決する能力や判断力を養い、地域農業や地域振興を担う人材を目指す。

4 花き経営学科で学ぶにあたって

花き経営学科では、花き経営を行う上で必要な知識や技術、経営管理等について学ぶとともに、実習や各種研修等を通じて営農や経営にかかる実践力を習得する。

そのため、高品質・安定生産技術をはじめ、切り花日持ち性向上への取組等を実践し総合的に学習する。

これらの学習を効果的に実施するために、1学年では、花き全般に関する基礎的な知識や本県の代表的な切り花、鉢物、枝物の生産技術や栽培理論について講義及び実習を通じて学ぶ。また、試験研究や先進農家の事例を学ぶとともに、花き市場での視察研修やフラワー装飾の実習を通じて流通から消費までの知識を学習する。

2学年では、より専門的な講義や実習を一体的に履修するとともに、卒業論文では学生自ら責任を持ち栽培管理から販売を行うことで、専門的な生産技術や経営感覚等を学び花き経営の担い手としての実践力を身に付ける。

5 畜産経営学科で学ぶにあたって

畜産経営学科では、自家への就農や農業法人への就職により農業経営を実践する人材を育成するため、乳用牛、肉用牛を対象とした家畜の飼養管理をはじめとして、自給飼料生産、耕種部門との連携、安全・安心な畜産物生産や付加価値を高める加工技術など、畜産経営に必要とされる専門的な知識や技術を学び、幅広く習得する。

このため、1学年では年間を通して乳用牛、肉用牛についての講義、演習、実験、実習を行い基礎的な実践力を養うとともに先進農家等留学研修や県内・県外での研修の実施など、畜産経営の現場を踏まえた基礎的な実践力を養う。

また、2学年ではより専門的な講義や実習を履修するとともに、卒業論文のテーマを乳用牛と肉用牛他畜産分野から課題を選択し、飼養管理の実践や調査研究を通してそれぞれの分野での高度な技術と経営感覚を醸成し、実践力を身に付ける。

さらに、畜産経営において必要とされる家畜人工授精師や大型特殊（農耕車に限る）などの資格、免許の取得を目指す。

IV 履修方法

1 履修に関する基本事項

履修課程は、講義による基礎理論教育と演習・実験による応用教育及び実習による実践教育からなり、農業に関する専門技術及び経営について履修する。

2 授業時間帯

1校時	8時50分～10時20分
2校時	10時30分～12時00分
3校時	13時10分～14時40分
4校時	14時50分～16時20分
5校時	16時30分～17時15分

3 休業日

授業を行わない日又は期間は次のとおりである。

なお、休業日であっても講義、演習、実験、実習などの授業を行うことがある。

また、栽培管理・飼養管理や卒論研究などで学校に残って自主学習することもできる。

- (1) 日曜日、土曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する祝日
- (2) 長期休業(9週間)
- (3) 学校記念日(7月17日の属する週の金曜日)
- (4) 臨時休業日

4 授業時間数と単位の計算

- (1) 学期は、前期(4月から9月まで)及び後期(10月から3月まで)の2期制で行う。
- (2) 1時限を90分の授業で行い、2時間として計算する。
- (3) 科目の1単位は、次により計算する。

講義・演習科目	15時間
実験科目	30時間
実習科目	45時間

- (4) 科目の種類と卒業要件及び進級要件

ア 科目は、教養科目、共通専門科目、専門科目がある。科目、単位及び授業時間数は、「5 教育課程と講師」にある履修計画のとおりである。

イ 上記の科目のうち、自由選択科目を除いて、卒業までに全ての科目を、2学年へ進級するためには1学年で開講される全ての科目を修得(単位の認定)しなければならない。

5 教育課程と講師

- (1) 2年間で学習する科目、単位、時間数、履修時期、担当講師は次表(7～9頁)のとおりである。
- (2) 外部講師は、大学の教官や専門家があたる(10頁)。

6 履修計画

- (1) 学年制を採用し、1 学年次に履修する科目と 2 学年次に履修する科目が定まっている。したがって、1 学年で履修する科目を 2 学年で履修することや、この逆はできないので、着実に履修することを必要とする。
- (2) 教養科目は主に 1 学年で履修する。専門科目のうち基礎的な科目については 1 学年当初から履修が始まり、1 学年後期からは学科ごとの応用、実践に関する専門科目を履修する。
- (3) 履修区分は、全員が必ず修得する必修科目と各人が任意に選択して修得する選択科目とからなる。選択科目は、必ず修得しなければならない択一選択科目と任意に受講できる自由選択科目がある。

各種資格取得に向け自由選択科目が開講されるので、将来を見据え積極的にチャレンジする。

7 履修に関する注意事項

- (1) 各科目において、開講時間数の 3 分の 2 の出席に満たない学生は、定期試験の受験資格がないので、単位を取得できない。
- (2) 各科目別に指示された履修方法に従って履修する。これに反する履修は認められない。
- (3) 指定された履修年次で単位を取得しないと、以降の年次での履修ができない。
- (4) 授業カリキュラムは、月間教育計画及び週間教育計画に分けられ、翌月及び翌週の教育計画は当月及び当週の後半に掲示される。
- (5) 学生への通知は、全て本館の学生掲示板に掲示する。

8 定期試験

- (1) 定期試験は、学期(前期及び後期)ごとに開講した科目についての試験である。
- (2) 再試験は、定期試験を受験できなかった学生に対する試験である。
- (3) 追試験は、定期試験及び再試験において 50 点未満の学生に対する試験である。

9 単位認定及び進級認定、卒業認定

- (1) 単位の認定は次による。
 - ア 各科目において、開講時間数の 3 分の 2 以上を出席する。
 - イ アを満たした場合、学期(前期、後期)ごとの定期試験を受験する。
 - ウ イの結果、50 点以上(100 点満点)で単位を認定する。
- (2) 進級及び卒業については、校内会議で決定される。

令和7年度入校生農業経営部履修計画及び担当講師

科目区分	学科	科目名	単位数	授業時間			授業回数(時限数)				担当講師	
				講義・演習	実験	実習	1学年		2学年			
							前期	後期	前期	後期		
共通教養科目	全学科共通	数学基礎	1	15			8				校内	
		国語表現	1	15			8				外部講師	
		体育	4	60			10	10	4	6	外部講師	
		英語コミュニケーション	1	15				8			外部講師	
		農業と情報(基礎)	1	15				8			外部講師	
		農業と情報(応用)	1	15					8		外部講師	
		福島の農業	1	15			8				校内、各農林事務所	
		特別講義	2			90	8	15	8	15	校内	
		(択一選択)就農講座Ⅰ	2	30				15			校内、外部講師	
		(択一選択)農業法人等就職講座Ⅰ								校内		
		(択一選択)就農講座Ⅱ	1	15				8			校内、外部講師	
		(択一選択)農業法人等就職講座Ⅱ									校内	
		① 小計	15	195	0	90	42	56	28	21		
共通専門科目	全学科共通	農業経営	2	30					15		外部講師	
		農業法規	2	30						15	外部講師	
		農業関連産業論	1	15			5	3			校内、外部講師	
		簿記概論	1	15			8				校内	
		農業情勢	1	15						8	外部講師	
		土壌肥料概論	1	15			8				外部講師	
		農業機械	1	15			8				校内	
		農業機械基礎実習	1			45	7	16			校内	
		農業機械操作実習Ⅰ	1			45			23		校内	
		マーケティング論	2	30					15		外部講師	
		鳥獣害対策	1	15				8			センター研究員	
		食品製造	1	15				8			外部講師	
		スマート農業実践	2	30				8	7		校内、外部講師	
		GAP概論	1	15			8				校内、外部講師	
		卒業論文	10	150			4	11	30	30	校内	
			(選択A)毒物劇物取扱者資格講座	2	30			15				校内
			(選択B)簿記検定講座	2	30				15			校内
			(選択C)刈払機・アーク溶接安全衛生教育	1			45	8	15			校内、外部講師
	(選択D)フォークリフト運転技能講習		1			45		23			校内、外部講師	
	(選択E)農業機械操作実習Ⅱ		1			45			23		校内	
	(選択F)進路対策講座			30				7	8		校内	
		自由選択小計	7	90	0	135	23	60	31	0		
		② 小計(自由選択科目を除く)	28	390	0	90	48	54	90	53		

科目 区分	学科	科目名	単 位 数	授業時間			授業回数(時限数)				担当講師
				講義・ 演習	実験	実習	1学年		2学年		
							前期	後期	前期	後期	
専門科目	水田野菜果樹花き学科共通	農業概論	2	30			15				校内
		病害虫基礎	2	30				15			校内、外部講師
		植物生理	1	15			8				校内
		環境保全と農業	2	30						15	外部講師
		有機農業	1	15					8		センター研究員
		農産物流通	1	15					8		校内
		農学実験	1		30		8	7			校内
		③ 小計	10	135	30	0	31	22	16	15	
	水田経営学科	先進農家等留学研修	5			225	45				校内
		水田経営研修	2			90	10	12	19	4	校内
		作物経営実習	23			1035	110	125	170	113	校内
		水田経営基礎	2	30			15				校内
		水田経営応用	2	30				15			校内
		水田経営実践	2	30					7	8	校内
		食品製造演習	2	30			4	11			校内、センター研究員
		④-1 小計	38	120	0	1350	184	163	196	125	
	野菜経営学科	先進農家等留学研修	5			225	45				校内
		野菜経営研修	2			90	10	12	19	4	校内
		野菜経営実習	23			1035	110	125	170	113	校内
		野菜生産概論	2	30			15				校内
		野菜栽培各論	2	30				15			校内
		野菜経営各論	2	30					7	8	校内
		食品製造演習	2	30				15			校内、センター研究員
		④-2 小計	38	120	0	1350	180	167	196	125	
	果樹経営学科	先進農家等留学研修	5			225	45				校内
		果樹経営研修	2			90	10	12	19	4	校内
		果樹経営実習	23			1035	110	125	170	113	校内
		果樹生産概論	2	30			15				校内
		果樹栽培各論	2	30				15			校内
		果樹経営各論	2	30					7	8	校内
		食品製造演習	2	30				15			校内、センター研究員、中野目貴洋
		④-3 小計	38	120	0	1350	180	167	196	125	
	花き経営学科	先進農家等留学研修	5			225	45				校内
		花き経営研修	2			90	10	12	19	4	校内
		花き経営実習	23			1035	110	125	170	113	校内
		花き生産概論	2	30			15				校内
		花き栽培各論	2	30				15			校内
		花き経営各論	2	30					7	8	校内
		フラワーデザイン演習	2	30				15			外部講師
		④-4 小計	38	120	0	1350	180	167	196	125	
水田、野菜、果樹、花き経営学科共通 必修科目合計(①、②、③、④)			91	840	30	1530	305	295	330	214	

科目 区分	学科	科目名	単 位 数	授業時間			授業回数(時限数)				担当講師
				講義・ 演習	実験	実習	1学年		2学年		
							前期	後期	前期	後期	
専門科目	畜産経営学科	畜産概論	1	15			8				校内
		家畜育種学	1	15				8			外部講師
		家畜繁殖学Ⅰ	1	15				8			校内
		家畜繁殖学Ⅱ	2	30					15		校内
		家畜栄養学	1	15			8				外部講師
		家畜衛生学	1	15					8		外部講師
		畜産環境保全	1	15						8	校内
		家畜解剖生理学	1	15			8				外部講師
		家畜解剖実験	1		30		15				外部講師
		先進農家等留学研修	5			225	45				校内
		畜産経営研修	2			90	10	12	19	4	校内
		畜産経営実習	23			1035	110	125	170	113	校内
		飼養管理基礎	2	30			15				校内
		飼料作物	1	15					8		外部講師
		食品製造演習	2	30			4	11			校内、センター研究員、外部講師
		(択一選択)飼養管理応用(乳用牛)	2	30				15			校内
		(択一選択)飼養管理応用(肉用牛)									
		(択一選択)乳用牛経営	1	15						8	校内
		(択一選択)肉用牛経営									
		⑤ 小計			48	255	30	1350	223	179	220
畜産経営学科 必修科目合計(①、②、⑤)			91	840	30	1530	313	289	338	207	

備考

- 1 授業時間は、1時限を90分の授業で行い、2時間として計算する。
- 2 1単位当たりの授業時間は、講義・演習については15時間、実験については30時間、実習については45時間とする。
- 3 択一選択については2科目から1科目を選択するものとする。
- 4 自由選択については、それぞれの科目を履修すること又は履修しないことを選択をすることができるものとする。

令和7年度入校生履修科目数

区 分	単位数	授業時間			授業回数(時限数)		備 考
		講義・演習	実験	実習	1学年	2学年	
履修科目の合計 (必修科目)	91	840	30	1530	600	544	
自由選択科目の合計	7	90	0	135	83	31	
合 計	98	2,625			1,258		

令和7年度農業経営部外部講師一覧

講師名	所属又は経歴
水野純子	メディカルフィットネスさくら
久野雅己	株式会社ソーシャルスピーカー代表取締役
志間幸恵	有限会社シップス取締役
安田修久	元高校教師
郷田芳博	元高校教師
横尾恵美	しゅふコミ代表
郡司尚子	郡山女子大学准教授
草野憲二	福島県植物防疫協会郡山試験地技術主幹
谷口崇至	AWエンジニアリング株式会社代表取締役社長
中村良美	フラワースタジオPOCO A POCO主宰
國分洋一	元県職員
伊藤純一	元県職員
二瓶由佳	獣医師
中野目貴洋	有限会社中野目畜産取締役

10 実習－卒論研究学習

主体的に学習に取り組むため、一人一農場・区画を基本とし生産から販売まで一連の過程を実践するプロジェクトにより農業経営力を身に付ける学習を展開する。その成績を卒業論文としてまとめ、経営者感覚を磨く。

そのため、実習は季節性や作業時間に柔軟に対応し、必要な農作業については時間外や休日も対応するものとする。

(1) 実践学習体系 別表1

(2) 実践学習内容 別表2

ア 経営学科実習

1年次は、学科毎に、ほ場、施設を活用しての基本技術の習得を重点とする。

さらに、卒業論文を進めるための調査手法を習得する。

2年次は、卒業論文の取組を進めながら、栽培技術等の実践学習を深める。

イ 卒業論文研究

営農に必要な基礎的知識、技術の習得と自主的に学習に取り組むため、卒論課題設定－試験計画樹立－実践－評価の流れで、自ら設定した課題の調査研究を実施する。

1年次

卒論課題設定－試験計画樹立

我が家の営農の現状や地域農業の現状、技術動向を踏まえ、作成する。

2年次

実践－評価

調査記録等を整理しながら、計画的に調査を進め、職員の指導のもと、成績を解析、まとめをする。

(ア) 完成した論文は定められた期日までに所属学科長に提出する。

(イ) 評定は、次の基準により判定される。

a テーマに関連のある基本的な文献及び資料をそしゃくし、論文の整理において自分なりの論旨を展開できていること。

b 論文構成(視点、展開、結論)において創造的であること。

(ウ) 記述項目は次のとおり。

- | | | |
|---|-------|-------------------|
| 1 | 表紙 | (卒業論文課題名、所属学科、氏名) |
| 2 | 目次 | |
| 3 | はじめに | (ねらい等) |
| 4 | 材料と方法 | |
| 5 | 試験結果 | (図・表を含む) |
| 6 | 考察 | |
| 7 | 要約 | (摘要) |
| 8 | 資料 | |

- (エ) 提出された卒業論文（原本）は、各学科で保管し、必要に応じて関係者に閲覧できるよう整理し、永年保管する。また、課題名一覧を別途作成し保管する。
- (オ) 後述の卒業論文発表会（全体）に向けて、2年次の12月に学科別卒業論文概要発表会を実施する。この発表会には、校長、副校長（農業経営部長）のいずれかが立ち会うように配慮し、発表要旨については卒業論文発表会に準じて作成する。
- (カ) 卒業論文発表会
- a 日 程：2年次の12月
 - b 発表時間：1人当たり発表10分、質疑応答5分、計15分
 - c 発表会：各学科代表
 - d 発表方法：口述とし、資料提示にはプロジェクター、パソコン等を使用する。
 - e 発表要旨：A4判用紙4枚（縦長、横書き）とし、卒業論文記述項目の1、3～6の項目で整理し、印刷・配付する。
 - f 参 加：1学年、2学年の学生及び教務職員全員参加とする。
 - g 代表者選定：卒業論文発表者の中から次の代表者を審査・選定する。
「東日本農業大学校等プロジェクト発表会・交換大会」（3課題、1月中旬）
- (キ) 提出された論文は論文集としてまとめ、原文のまま印刷・作成し、提出者等に提出のあった年の3月に配付するとともに、学校に保管する。

別表1 実践学習体系

学年	時期	〔教育目標〕	〔到達目標〕	〔教育内容〕
1 学年	4 月 ～ 6 月	適応力養成期間 教育目標 自主性の養成(自立心と協調性の醸成) 到達目標 実践を通して学習の目標を持つ (1) 経営学科実習を通し、農業の基礎を学ぶ (2) 実践学習の特徴を理解し、目標を持つ		基礎実習
	7 月 ～ 3 月	実践力養成期間 教育目標 主体性・実践力の養成 (学習意欲の高揚) 到達目標 農業の魅力を実感し 将来の経営目標を設定 (1) プロジェクト学習の基礎を学ぶ (2) 学習のまとめ、分析の基礎を学ぶ (3) 海外農業研修で国際感覚を養う		先進農家等留学研修 海外農業研修 卒業論文設計
2 学年	4 月 ～ 6 月	実践力アップ期間 教育目標 豊かな人間性と主体性の確立 (リーダーシップの確立) 到達目標 主体的な取組により、実践学習の効果を高める (1) 卒業論文を通して、農業者としての課題解決手法を身に付ける (2) 卒業論文の作成や先進農業者の事例を通して、経営感覚を養う		卒業論文研究 データ収集
	7 月 ～ 3 月	総括期間 教育目標 実践力のある農業者の育成 到達目標 優れた経営感覚の醸成 (1) 卒業論文のとりまとめ、発表		中間検討 卒業論文発表 (12月) 卒業論文作成完了 (1月)

別表2

実習計画〔水田経営学科〕

時期		実 習 内 容				生産に付随して 実施する内容	校外研修 場所・内容	
月	旬	〈 水 稻 〉 〈 麦 類 〉 〈 大 豆 〉 〈 バレイショ 〉 〈 カンショ 〉						
4	上	精米作業				水稻育苗法		
	中	種子準備	ほ場準備 植え付け					
	下	播 種						
5	上	ほ場準備	穂 肥	中 耕	植え付け	麦類出穂期調査	水稻苗質調査 田植機の操作	
	中	移 植	病害防除	中耕培土				
	下	除草剤散布						
6	上	畦畔除草	ほ場準備 種子準備 播 種	病害防除	病害防除	水稻生育調査 水稻雑草調査 麦類成熟期調査 直売実習		
	中							
	下			中耕培土				
7	上	畦畔除草	収 穫 乾 燥 調 製	中耕培土	収 穫	培土 除草 病虫害防除	水稻生育調査 直売実習	
	中	病害防除						
	下	穂 肥						
8	上		病虫害防除	病虫害防除		大豆開花期調査 直売実習 水稻出穂期調査	校外研修 (先進的農業者)	
	中							
	下							
9	上		病虫害防除			水稻成熟期調査 直売実習	先進農家等留学研修 (1学年)	
	中							
	下	収 穫						
10	上	収 穫 乾 燥 調 製	種子準備 ほ場準備 播 種	収 穫 乾 燥 調 製	収 穫	水稻収穫調製法 大豆成熟期調査		
	中							
	下							
11	上		畑作物加工演習等			乾燥	直売実習	水稻収量・品質調査
	中							
	下							
12	上					土壌分析演習開始	卒業論文設計開始	
	中							
	下							
1	上					水稻食味官能評価	経営分析演習	
	中							
	下							
2	上					卒業論文設計終了	校外研修 (先進的農業者)	
	中							
	下							
3	上	↓	幼穂形成期 追肥	↓	浴光催芽	土壌分析演習終了		
	中							
	下							

実習計画〔野菜経営学科〕

時期		実 習 内 容							生産に付随して実施する内容	校外研修場所・内容				
		【果菜類】				【葉茎菜類】								
		トマト	キュウリ	アスパラガス	ブロッコリー	ホウレンソウ	ネギ	タマネギ						
月	旬	促成	夏秋	半促成	夏秋		(初夏どり)		(秋まき)					
4	上	促成 収穫	接木 仮植	半促成 収穫	は種	収穫	定植	定植	定植	育苗ハウス管理 定植ほ場準備 定植				
	中													
5	上	促成 収穫	定植	半促成 収穫	は種	接木 定植	収穫	定植	定植	収穫・調製				
	中													
	下													
6	上	促成 収穫	定植	半促成 収穫	は種	接木 定植	収穫	定植	定植	収穫・調製 病害虫防除 直売実習				
	中													
	下													
7	上	促成 収穫	定植	半促成 収穫	は種	接木 定植	収穫	定植	定植	収穫・調製 病害虫防除 直売実習				
	中													
	下													
8	上	促成 収穫	定植	半促成 収穫	は種	接木 定植	収穫	定植	定植	収穫・調製 病害虫防除 直売実習				
	中													
	下													
9	上	促成 収穫	定植	半促成 収穫	は種	接木 定植	収穫	定植	定植	収穫・調製 病害虫防除 直売実習				
	中													
	下													
10	上	促成 収穫	定植	半促成 収穫	は種	接木 定植	収穫	定植	定植	収穫・調製 病害虫防除 直売実習				
	中													
	下													
11	上	促成 収穫	定植	半促成 収穫	は種	接木 定植	収穫	定植	定植	収穫・調製 病害虫防除 直売実習				
	中													
	下													
12	上	促成 収穫	定植	半促成 収穫	は種	接木 定植	収穫	定植	定植	卒業論文計画作成				
	中													
	下													
1	上	促成 収穫	定植	半促成 収穫	は種	接木 定植	収穫	定植	定植	卒業論文計画作成				
	中													
	下													
2	上	促成 収穫	定植	半促成 収穫	は種	接木 定植	収穫	定植	定植	卒業論文計画作成 卒業論文研究の育苗 及び資材準備				
	中													
	下													
3	上	促成 収穫	定植	半促成 収穫	は種	接木 定植	収穫	定植	定植	卒業論文計画作成 卒業論文研究の育苗 及び資材準備				
	中													
	下													

実習計画〔果樹経営学科〕

時期							生産に付随して実施する内容	校外研修場所・内容
月	旬	モモ	ニホンナシ	ブドウ	カキ	リンゴ		
4	上						接ぎ木(切り接ぎ) 防霜対策 貯蔵花粉発芽率調査 花の採取・開葯 花粉の貯蔵	
	中	摘らい 結果母枝誘引						
	下	摘花	人工受粉					
5	上	摘果				人工受粉 摘花 摘果	着果管理 予備摘果	
	中	↓	摘果	芽かき		↓		
	下			雨よけ被覆 花穂整形 GA処理	摘らい			
6	上	↓	↓	↓		↓	仕上げ摘果 リンゴ・モモ・ナシ果実 肥大調査(収穫まで)	県内研修 県外研修
	中			摘粒				
	下	夏季せん定	新梢管理		夏季せん定			
7	上	着色管理		↓			修正摘果 直売実習 出荷調整・販売実習(ふじ 収穫まで) モモ果実品質調査 ナシ防鳥対策	
	中	収穫		袋かけ		夏季せん定		
	下	↓			摘果			
8	上	↓		収穫	↓		直売実習 ブドウ果実品質調査 ナシ果実品質調査 リンゴ防鳥対策	
	中		収穫	収穫				
	下					着色管理 収穫		
9	上						接ぎ木(芽接ぎ)	先進農家等留学研修 (1学年)
	中	秋季せん定		↓				
	下							
10	上						カキ果実品質調査	県内研修
	中		↓					
	下			収穫 脱渋処理				
11	上					↓	リンゴ果実品質調査 直売実習	
	中							
	下							
12	上	耕種の防除(落葉処理・粗皮削り)					花芽分化率調査	県内研修
	中							
	下	整枝・せん定						
1	上							
	中							
	下							
2	上		側枝誘引					
	中		↓					
	下			↓				
3	上	摘らい		結果母枝誘引			土壌改良資材散布	
	中	↓		↓				
	下	↓		↓				

実習計画〔花き経営学科〕

時期		実 習 内 容						生産に付随して実施する内容	校外研修場所・内容
月	旬	<露地切り花>		<施設切り花>		<苗物、鉢物>			
		アスター	ダリア	キク	キンギョソウ	宿根カスミソウ	苗物	シクラメン	
4	上	は種		挿し芽	収穫	収穫	は種	鉢上げ	育苗ハウス管理 挿し芽用土作成 定植ほ場準備 鉢物用土作成
	中								
	下		定植						
5	上								定植ほ場準備 一年草の定植 球根類の定植 苗物用土作成
	中	定植		定植			育苗		
	下								
6	上								花壇苗定植準備 直売実習
	中					定植	出荷	鉢上げ	
	下								
7	上								切り花収穫・調整・出荷 切り花品質調査 病害虫防除 直売実習
	中								
	下	収穫					パンジー は種		
8	上				は種				切り花収穫・調整・出荷 切り花品質調査 直売実習
	中	収穫					育苗		
	下		収穫	収穫					
9	上				定植				切り花収穫・調整・出荷 切り花品質調査 直売実習
	中								
	下								
10	上								切り花収穫・調整・出荷 苗物・鉢物出荷調整
	中						出荷		
	下							出荷	
11	上					収			球根類の堀上げ・貯蔵 キク親株ほ場準備 直売実習
	中			親株移植					
	下								
12	上								冬期ハウス管理
	中								
	下					収		は種	
1	上								育苗管理
	中								
	下					穫		育苗	
2	上								卒業論文計画作成
	中								
	下								
3	上								育苗管理
	中								
	下								

実習計画〔畜産経営学科〕

○時期ごとの実習

月	実習内容	生産に付随して実施する内容	校外研修 場所・内容
4	トウモロシの播種 肥育素牛導入	導入時の駆虫、投薬、群管理方法	
5	一番草収穫 肥育牛除角	保定方法	
6	二番草収穫		
7	暑熱対策		
8	トウモロシ収穫・調製	トウモロシの収穫適期調査	
9	三番草収穫 家畜の審査	牛の見方、牽引・保定方法	先進農家等留学研修(1学年)
10	牧草播種、稲わら収集 削蹄		県内研修
11	堆肥散布 肥育牛出荷	出荷準備、枝肉成績の見方	県外研修
12	寒冷対策		県内研修
1		卒業論文テーマ検討	
2		卒業論文設計	
3		卒業論文設計	

○通年の実習

実習内容	生産に付随して実施する内容
【一般管理】 飼料給与 健康状態把握 哺育期の管理 育成期の管理 搾乳(乳用牛) ビタミンコントロール(肥育牛)	・飼料の種類と見分け方 ・飼料給与計画の作成 ・初乳給与 ・健康状態の観察、投薬 ・パイプラインシステムの操作、衛生管理 ・ビタミン欠乏症の見極め、予防方法、投薬方法
【繁殖管理】 分娩管理 発情鑑定 人工授精	・分娩兆候観察と介助 ・発情兆候と行動の観察 ・授精適期の判断
【排せつ物の処理】 堆肥の運搬、切り返し作業	・農業機械の操作
【牛の出荷】 牛体の測定	・出荷準備 ・家畜市場での出荷対応 ・枝肉成績の見方

V 講義要項

1 共通教養科目

【 数学基礎 】

- 1 科目区分：共通教養科目
- 2 対象学科：全経営学科共通
- 3 時期及び単位数：1 学年前期・1 単位
- 4 到達目標

農業を実践する上で必要になる面積、体積、肥料・農薬の施用量や希釈倍率、栽植密度等に関する計算方法を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月	1	1 単位、面積と体積の計算	(1) 長さ、面積、体積、重さの単位を理解する。 (2) 面積、体積の計算方法を理解する。
	2, 3	2 肥料計算	(1) 肥料成分の表示方法について理解する。 (2) 施肥量の計算を理解する。
	4, 5	3 農薬の希釈	(1) 農薬の剤型とそれらの特性を理解する。 (2) 農薬希釈の計算方法を理解する。
	6, 7	4 栽植密度の計算	(1) 栽植密度の考え方と計算方法を理解する。
	8	5 試験	

- 6 使用テキスト 配布資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 筆記試験・課題提出 80%、受講態度等 20%

【 国語表現 】

- 1 科目区分： 共通教養科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年前期・1 単位
- 4 到達目標

書くことの基本技能を学び、実習や研修実施後等を実施した内容を説明し、自分の感想、意見を記述する方法を習得する。報告書としての「レポートの書き方」の基礎を学び、実作を通して「レポートの書き方」を体得する。

さらに、社会人として必要な文章の書き方を体得する。

国語で適切にまた効果的に表現する能力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって生活を充実させる態度を育てる。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月	1	1 文章表現の基礎	(1) 論文で求められるもの
	2		(2) テーマをとらえる
	3～4	2 作文・レポートの書き方	(1) 序の書き方 (2) 論文の全体構成 (3) 各セクションの構成
	5～6	3 自己分析と意思表示	(1) 自己アピール文と志望理由書 (2) ビジネス文書の基本形
	7	4 表現する	情報の収集・整理とその表現
	8	試験	

- 6 使用テキスト 配付資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 筆記試験・課題提出 80%、学習態度等 20%

【 体 育 】

- 1 科目区分： 共通教養科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1， 2 学年通年・ 4 単位
- 4 到達目標
生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を身に付ける。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 学 年 通 年	1 ～ 10	1 球技等	(1) バレーボール (2) バスケットボール (3) バドミントン (4) 卓球 (5) エアロビクス
	11～14	2 スポーツ大会	
	15～20	3 球技大会	
2 学 年 通 年	21～24	1 スポーツ大会	
	25～30	2 球技大会	

- 6 使用テキスト 無
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 受講態度 80%、出席等 20%

【 英語コミュニケーション 】

- 1 科目区分： 共通教養科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年後期・1 単位
- 4 到達目標
国際的な素養として英会話の基礎的なコミュニケーション能力を身に付ける。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 0 ～ 2 月	1	1 基本的なフレーズ	(1) あいさつ (2) 日常会話
	2～5	2 旅行時の英会話	(1) 空港でのやり取り (2) ホテル・レストランでの英会話 (3) 自己紹介 (4) 学校紹介
	6～8	3 ネイティブとの会話	(1) 英語表現の実践 (2) スピーチ

- 6 使用テキスト 配付資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 口述試験・学習意欲 80%、授業態度等 20%

【 農業と情報（基礎） 】

- 1 科目区分： 共通教養科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年後期・1 単位
- 4 到達目標
農業経営に必要な情報処理技術の基礎を身に付ける。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 0 3 月	1	1 コンピュータ	(1) ハードウェア (2) ソフトウェア
	2～3	2 情報通信ネットワーク	(1) ネットワーク (2) インターネット (3) メール
	4～5	3 情報モラルと情報セキュリティ	(1) 情報モラル (2) 情報セキュリティ
	6～7	4 文書作成及びデータ処理演習	(1) マイクロソフトワードの操作 (2) マイクロソフトエクセルの操作 (3) マイクロソフトパワーポイントの操作
	8	5 試験	

- 6 使用テキスト 配付資料
- 7 参考図書 配布資料
- 8 評価の要素 筆記試験・課題提出 80%、受講態度等 20%

【 農業と情報（応用） 】

- 1 科目区分： 共通教養科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 2 学年前期・1 単位
- 4 到達目標
農業経営に必要な情報処理技術の応用を身に付ける。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月	1	インターネット販売に必要な基礎知識	(1) インターネット販売のビジネスモデル (2) 関連する法規 (3) セキュリティ対策
	2	ネットショップ運営に必要な実務知識	(1) 市場調査 (2) 企画書の作成 (3) 各種届 (4) 商品開発 (5) ネットショップ運営業務
	3～6	ネットショップの制作	(1) ネットショップ制作の流れ (2) ネットショップの設計 (3) ネットショップ制作演習
	7	制作発表	
	8	試験	

- 6 使用テキスト 配付資料
- 7 参考図書 特になし
- 8 評価の要素 筆記試験・課題提出 80%、学習態度等 20%

【 福島 の 農 業 】

- 1 科目区分： 共通教養科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年前期・1 単位
- 4 到達目標

本県の地域毎の農業の特徴を理解するとともに、現在、各地域で発生している農業や農村の課題について、現地での取組を体験する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
前期	1 ～ 5	福島 の 農 業（講義）	(1) 福島の水田 (2) 福島の野菜 (3) 福島の果樹 (4) 福島の花き (5) 福島の畜産
	6 ～ 8	福島 の 農 業（現地視察）	中通り、会津、浜通りの3コースから学生が選択して、各地域の特徴ある産地や農業経営等を視察する。

- 6 使用テキスト 配付資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 受講態度 20%、レポート等 80%

【 特別講義 】

- 1 科目区分： 共通教養科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年、2 学年通期・2 単位
- 4 到達目標

様々な活動を通じて社会生活に必要な知識を得るとともに、他者と協力して活動することにより、リーダーシップや協調性等を養うことを目的としている。

5 講義内容

内 容		時限数
1	ホームルーム活動	5
2	オリエンテーション	4
3	健康診断	4
4	防災訓練	4
5	学生自治会・寮自治会活動（総会等）	4
6	交通安全講話	2
7	環境美化	20
8	学校行事（植付祭、収穫祭、直売実習、オープンキャンパス、学校祭、卒業記念講演、行事準備等）	47
合 計		90

- 6 使用テキスト 無
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 出席状況

【 就農講座Ⅰ 】

- 1 科目区分： 共通教養科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年後期・2 単位
- 4 到達目標

社会人として働くことへの心構えや、先進農家・農業法人への視察研修等を通じ、農業を担う地域社会のリーダーに相応しい基礎的な知識を取得する。また、就農にあたって必要になる公的支援や就農支援制度等に関する知識の習得を目指す。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 0 ～ 3 月	1～4	1 社会情勢と働く意義 (農業法人等就職講座Ⅰと共通)	(1) 自分達が生きていく時代の社会情勢 (2) 働くということの意味や仕事への理解
	5～6	2 就農にあたっての心構え 3 公的支援・就農支援制度	(1) 就農にあたっての心構え (2) 公的支援や就農支援制度と支援の条件
	7～15	4 先進農家・農業法人視察研修	多様な経営方法や栽培技術等

- 6 使用テキスト 配布資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 課題提出 80%、受講態度(出席状況含む) 20%

【 農業法人等就職講座Ⅰ 】

- 1 科目区分： 共通教養科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年後期・2 単位
- 4 到達目標
 - ① 卒業後、自分達はどのような社会情勢のなかで働いていくのか理解する。
 - ② 自分の性格や考え方、興味のある仕事を理解する。
 - ③ ①、②について理解を深めたのち、自分が就職を希望する農業法人や企業等の採用試験に向けた対策を実践する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 0 ～ 3 月	1～6	自分達が生きていく時代について理解する	(1) 自分達が生きていく時代の社会情勢について理解する。 (2) 人間が働くということの意味や仕事について理解する。
	7～12	自己分析と応募書類の作成	(1) 自分の性格や考え方を理解する。 (2) 自分が興味をもっている仕事を理解する。 (3) エントリーシートの作成方法を理解し、実践する。
	13～15	面接対策	(1) 面接について理解する。 (2) 個別面接の練習を行う。

- 6 使用テキスト 配布資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 課題提出 80%、受講態度等 20%

【 就農講座Ⅱ 】

- 1 科目区分： 共通教養科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 2 学年前期・1 単位
- 4 到達目標

農業を担う地域社会のリーダーに相応しい基本的な知識を習得する。また、就農に向けた準備とするため青年等就農計画を作成する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 ～ 9 月	1 ～ 2	1 先進農家等研修	多様な経営方法や栽培技術等
	3 ～ 4	2 学生実家訪問	就農する学生の実家に訪問し、自家の経営や栽培方法について学生自ら案内・説明することで、自家の農業経営について理解を深める。
	5 ～ 6	3 就農計画作成	(1) 就農計画作成のための情報収集、事前準備 (2) 就農支援制度を活用した就農計画の作成
	7 ～ 8	4 ビジネスマナー講座 (農業法人等就職講座Ⅱと共通)	(1) 身だしなみ (2) 名刺交換、座席位置、名刺位置 (3) 挨拶、言葉遣い、電話対応 (4) 情報伝達、ビジネスメール (5) リアリティショック

- 6 使用テキスト 配布資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 課題提出 80 %、受講態度（出席状況含む） 20 %

【 農業法人等就職講座Ⅱ 】

- 1 科目区分： 共通教養科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 2 学年前期・1 単位
- 4 到達目標

農業に関連する職種等への就職活動に必要なとなるスキルを習得し、希望する進路目標を達成する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月	1～6	1 就職活動対策講座 2 社会人準備講座（内定し就職活動を終了した学生を対象とする）	(1) 「企業への電話のかけ方」、「企業へのメール対応」、「自己PR作成と発表」、「志望動機作成」、「集団討論、面接練習」 (2) 「就職活動の振り返り」、「ビジネスマナー」、「キャリアシミュレーション」、「社会人講話」
	7～8	3 ビジネスマナー講座	(1) 身だしなみ (2) 名刺交換、座席位置、名刺位置 (3) 挨拶、言葉遣い、電話対応 (4) 情報伝達、ビジネスメール (5) リアリティショック

- 6 使用テキスト 配布資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 課題提出 80%、受講態度等 20%

2 専門科目（全経営学科共通）

【 農業経営 】

1 科目区分： 共通専門科目

2 対象学科： 全経営学科共通

3 時期及び単位数： 2 学年前期・2 単位

4 到達目標

農業経営に必要な経営戦略や財務の基礎や一般的な知識について学習するとともに、農業経営先進事例から、農業経営者を目指すための知識を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 ～ 9 月	1～8	1 農業経営の基礎	(1) 決算書の見方 (2) 資金計画と資金繰り (3) 補助金活用 (4) 農業マーケティングの基礎 (5) 経営管理 (6) 農業簿記の基礎
	9～15	2 農業経営実践のための 情報発信	(1) 情報発信の重要性 (2) 情報発信の注意点 (3) SNSを活用した情報発信

6 使用テキスト 配付資料

7 参考図書 無

8 評価の要素 レポート 80%、受講態度等 20%

【 農業法規 】

- 1 科目区分： 共通専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 2 学年後期・2 単位
- 4 到達目標
農業経営を実践する際に知識として必要となる関連法律について理解する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 0 1 月	1 ～ 5	1 基礎的な法律	(1) 民法 (2) 食料・農業・農村基本法 (3) 農地法、農振法 (4) 農業経営基盤強化促進法、農地中間管理法 (5) 土地改良法
	6 ～ 10	2 安全な農産物の生産に関する法律	(1) 食品衛生法 (2) 毒物及び劇物取締法 (3) J A S 法、トレーサビリティ法、農産物検査法 (4) 農薬取締法、植物防疫法 (5) 計量法
	11～14	3 農業生産に関連する法律	(1) 環境基本法、土壤汚染対策法、水質汚濁防止法 (2) 肥料の品質の確保等に関する法律 (3) みどりの食料システム戦略、食糧法 (4) 農業保険法
	1 5	4 試験	

- 6 使用テキスト 配付資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 筆記試験・課題提出 80 %、学習態度等 20 %

【 農業関連産業論 】

- 1 科目区分： 共通専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年通年・1 単位
- 4 到達目標

農業支援組織として総合的に関与する農業協同組合や、自然災害などによる損失を補てんする公的な農業保険制度である農業共済について学習する。

また、農業経営に必要な税制や農業気象学について学ぶ。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月	1～3	1 農業気象について	(1) 農業と気象 (2) 福島県の気象の特徴 (3) 地球温暖化がもたらす影響
	4～6	2 農業支援組織の種類、特色	(1) 農業協同組合の役割 (2) 農業共済組合の役割
	7	3 農業に関する税制	(1) 租税講座
	8	4 水素産業について	(1) 矢吹町の水素エネルギーへの取組み (2) 水素エネルギーを活用した産業

- 6 使用テキスト 配付資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 提出課題・レポート 80%、学習態度等 20%

【 簿記概論 】

1 科目区分： 共通専門科目

2 対象学科： 全経営学科

3 時期及び単位数： 1 年前期・1 単位

4 到達目標

複式簿記の原理、記帳法、決算手続きを理解し、農業経営実践のために必要な会計処理の技術を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 9 月	1	1 農業簿記の概要 2 簿記一巡の手続き	簿記とは、簿記の種類、農業とは、農業の特徴 農業簿記の目的、会計期間、経営成績、財政状態 取引とは
	2	2 簿記一巡の手続き	仕訳と転記、仕訳帳と総勘定元帳、伝票による 仕訳と総勘定元帳への転記、主要簿と補助簿
	3	2 簿記一巡の手続き 3 勘定科目 4 収益・費用の記帳 方法	試算表の作成 農業簿記の勘定科目、農業経営と勘定科目 収益と費用、農業特有の会計処理
	4	5 流動資産・流動負債	流動資産
	5	5 流動資産・流動負債 6 固定資産	流動負債、固定負債、資本金 有形固定資産、修繕費と資本的支出、有形固定 資産の売却
	6～7	7 決算書の作成	決算書作成までの手順（一連の手続き） 決算の具体的手続き
	8	8 試験	

6 使用テキスト 『農業簿記検定 教科書3級』大原出版

7 参考図書 『農業簿記検定 問題集3級』大原出版

8 評価の要素 筆記試験、受講態度、出席状況により評価
筆記試験80%、受講態度10%、出席状況10%

【 農業情勢 】

- 1 科目区分： 共通専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 2 学年後期・1 単位
- 4 到達目標
農業情勢（本県の状況、主要施策・制度等）を理解する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 0 1 月	1	1 ふくしま復興のあゆみ	(1) 東日本大震災の被害と復興状況など
	2	2 福島県農林水産業振興計画	(1) 計画の内容、主要施策 (2) 農業・農村の動向など
	3	3 県産農畜産物の輸出	(1) 県産農畜産物の輸出の現状 (2) 県産農畜産物輸出拡大に向けた取組
	4	4 新たな米政策	(1) 経営所得安定対策 (2) 米の需給状況など
	5	5 鳥獣被害対策	(1) 鳥獣被害の現状 (2) 鳥獣被害防止対策
	6	6 再生可能エネルギー	(1) 再生可能エネルギーの導入促進策 (2) 県内の動向及び導入事例
	7	7 日本型直接支払制度	(1) 多面的機能支払 (2) 中山間地域等直接支払
	8	8 試験	

- 6 使用テキスト 配付資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 筆記試験・課題提出 80%、学習態度等 20%

【 土壌肥料概論 】

- 1 科目区分： 共通専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年前期・1 単位
- 4 到達目標

土壌・肥料の基礎知識を学び、農業経営に必要な「土づくりと作物生産」との関係の基礎を理解する。また、土壌医検定3級取得に向けた内容を学習する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 9 月	1	1 作物の生育と土壌環境	作物の健全な生育と土壌環境
	2	2 土壌の化学性	作物生育と土壌の化学性
	3	3 土壌の物理性	作物生育と土壌の物理性
	4	4 土壌の生物性	作物生育と土壌生物性
	5	5 土壌改良	土壌改良と施肥・灌水管理
	6	6 土壌・施肥管理	コスト低減、環境負荷低減等を目指した土壌・施肥管理
	7	7 主要作物の施肥管理	主要作物の栽培特性と施肥管理
	8	8 試験	

- 6 使用テキスト 『土づくりと作物生産』 日本土壌協会
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 筆記試験・課題提出 80%、学習態度等 20%

【 農 業 機 械 】

1 科目区分： 共通専門科目

2 対象学科： 全経営学科共通

3 時期及び単位数： 1 学年前期・1 単位

4 到達目標

農業機械の種類、構造と機能、農作業安全など農業経営に必要な基礎知識を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 ～ 9 月	1	1 農業と農業機械	(1) 農業機械の役割
	2～3	2 農業機械の構造と役割	(1) 原動機
	4～5		(2) トラクタ
	6		(3) 農業機械と安全
	7	3 農業生産と農業機械の利用	(1) 農業機械の効率的利用
	8	4 試験	

6 使用テキスト 農業機械（実教出版）

7 参考図書 無

8 評価の要素 筆記試験・課題提出 80％、受講態度等 20％

【 農業機械基礎実習 】

1 科目区分： 共通専門科目

2 対象学科： 全経営学科共通

3 時期及び単位数： 1 学年通年・1 単位

4 到達目標

トラクタ、管理機、刈払機及び作物別の農業機械の基本操作、点検整備、安全対策など農業経営に必要となる技能を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 3 月	1～2	1 農業機械の基本操作 1	(1) 刈払機の基本操作
	3～4		(2) 刈払機作業の実践
	5～6		(3) ロータリ耕の基本
	7～12	2 農業機械の最先端	(1) メーカーによる農業機械の展示・実演
	13～14	3 農機整備の基礎	(1) 乗用トラクタ
	15～16		(2) 歩行型トラクタ、刈払機
	17～18	4 農業機械の基本操作 2	(1) 乗用トラクタの基本操作
	19～20		(2) 乗用トラクタの前後進操作
	21～22		(3) 乗用トラクタの周回走行操作
	23	5 農業機械の操作	(1) 農業機械操作の実践

6 使用テキスト 配布資料

7 参考図書 無

8 評価の要素 学習態度 50%、技術の到達度 50%

【 農業機械操作実習Ⅰ 】

- 1 科目区分： 共通専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 2 学年前期・1 単位
- 4 到達目標

トラクタの基本操作と運転技術を身に付け、大型特殊免許（農耕車に限る）の取得を目指す。なお、本実習が始まるまでに、普通自動車免許を取得しておくことが望ましい。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 9 月	1～2	1 トラクタの基本操作	(1) トラクタの基本操作
	3～4		(2) 前後進、外周走行、車庫入れ
	5～8	2 トラクタの路上走行	(1) 道路交通法に従った路上走行練習
	9～10	3 トラクタ運転技能の評価	(1) 走行チェック①
	11～12	4 トラクタの路上走行	(1) 道路交通法に従った路上走行練習
	13～14	5 トラクタ運転技能の評価	(1) 走行チェック②
	15～16	6 トラクタの路上走行	(1) 道路交通法に従った路上走行練習
	17～18	7 技能試験受験準備	(1) 試験コースの説明、書類作成
	19～23	8 技能試験受験	(1) 運転免許センターでの受験

- 6 使用テキスト 配布資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 学習態度 50%、技術の到達度 50%

【 マーケティング論 】

- 1 科目区分： 共通専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 2 学年前期・1 単位
- 4 到達目標
マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの意義やその重要性を理解、その基礎を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 9 月	1	1 経営、マーケティング、農産物マーケティングの内容と体系	(1) マーケティングとは何か、その重要性について
	2		(2) 農産物マーケティングの内容と体系
	3		(3) 経営コンセプト、マーケティングコンセプト、生活者コンセプト
	4	2 農産物マーケティングの内容と体系	(1) マーケティングの4要素と体系的マネジメント
	5		(2) 生活者の要求と経営の対応
	6		(3) 商品開発とマーケティングマネジメント
	7	3 現代マーケティングの諸問題	(1) 地域と農産物マーケティング
	8	4 試験	

- 6 使用テキスト 『これだけは知っておきたい「マーケティングの基本と常識」』
フォレスト出版
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 レポート・筆記試験 80%、受講態度等 20%、

【 鳥獣害対策 】

- 1 科目区分： 共通専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年通年・1 単位
- 4 到達目標

年々問題が深刻化している鳥獣害について、現状や獣種による対策について、現地事例や実技を通して学習する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
前期	1	鳥獣害の現状	鳥獣害とは 全国及び本県の現状、課題
	2～4	獣種による被害及び対策	被害の状況、対策方法 (サル、イノシシ、クマ等)
	5～6	対策の実際	電気柵・ワイヤーメッシュの設置 方法（実技）
	7	鳥獣に関する法律及び狩猟免許について	鳥獣保護管理法 鳥獣被害防止特措法 等 狩猟資格の概要
	8	試験	

- 6 使用テキスト 配付資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 筆記試験・レポート 80%、受講態度 20%

【 食品製造 】

1 科目区分： 共通専門科目

2 対象学科： 全経営学科共通

3 時期及び単位数： 1学年後期・1単位

4 到達目標

食品を加工する意義について理解するとともに、食品劣化防止や食品の加工法、さらに食品に含まれる栄養素について学ぶ。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 0 5 2 月	1	1 授業目的と食品加工の流れ	(1) 授業の目的 (2) 大学での食品加工から商品化までの流れを、経験談を踏まえ紹介する。
	2	2 食品を加工する目的と意義	食品を加工する目的と意義
	3	3 食品保存の原理と方法	食品の変質を起こす要因とその防止・方法
	4	4 食品加工の原理と方法	食品加工法の分類及び方法
	5	5 植物性食品の加工法	穀類、豆類、野菜類、果実類他
	6	6 動物性食品の加工法	肉類、卵類、乳類、食用油脂
	7	7 酒類、調味料、調理加工食品	酒、調味料、みそ、しょう油、レトルト食品
	8	8 試験	

6 使用テキスト 配付資料

7 参考図書 無

8 評価の要素 筆記試験・課題提出 80%、学習態度等 20%

【 スマート農業実践 】

- 1 科目区分： 共通専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年後期、2 学年前期・2 単位
- 4 到達目標

担い手不足が課題となっている農業の現場において、今後導入が必須になると想定されるスマート農業の基礎的な知識を習得する。また、スマート農業機械を実際に体験することで、導入効果や使用方法等への理解を深める。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 学年・後期	1	スマート農業について（講義）	必要性、意義、推進対策
	2	土地利用型作物における実践事例（講義）	技術概要、導入事例（水田・畑作）
	3	園芸作物における実践事例（講義）	技術概要、導入事例（野菜・花き）
	4	園芸作物、畜産における実践事例（講義）	技術概要、導入事例（果樹・畜産）
	5～8	土地利用型作物関連機械の実践（演習）	トラクタ、田植機、ドローン等実演
	9	試験	
2 学年・前期	1～3	園芸作物関連機械・施設の導入事例調査（現地視察）	統合・複合環境制御装置等
	4～5	畜産関連機械・施設の導入事例調査（現地視察）	スマート畜舎等
	6	全体のまとめ	レポート作成

- 6 使用テキスト 配布資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 筆記試験・レポート 80%、受講態度 20%

【 G A P 概 論 】

- 1 科目区分： 共通専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年前期・1 単位
- 4 到達目標

講義、演習及び農場における G A P の実践事例の学習を通じて、G A P の考え方や仕組みを理解する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 9 月	1	1 G A P の基礎	(1) G A P の基本的な考え方について学ぶ (2) 福島県における G A P の推進状況について学ぶ
	2～5	2 G A P の実践講座	(1) G A P 認証受けるためには、どのような対応が必要なのか、講義とグループワークで理解する。
	6, 7	3 G A P の事例研究	(1) 農業短期大学校における G A P 認証への対応状況について、書類と農場の現場をみながら理解する。
	8	4 試験	

- 6 使用テキスト 配布資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 筆記試験・課題提出 8 0 %、受講態度等 2 0 %

【 卒業論文 】

- 1 科目区分： 共通専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年後期・2 単位、2 学年通年・8 単位
- 4 到達目標

(1) 1 学年

卒業論文の計画を立て、科内設計検討会で発表する。また、2 年生の卒業論文計画発表会、中間検討会、卒業論文発表会への出席・聴講、質疑応答への参加を通し、2 年次に自らが取り組む卒業論文についての理解を深める。

(2) 2 学年

専門科目、経営実習等で学んだ専門知識、技術の集大成として卒業論文の執筆に取り組むことにより、自己解決能力を醸成するとともに、発表会等を通して自己表現能力を養う。

5 講義内容

(1) 1 学年

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 0 ～ 3 月	1 ～ 6	課題設定及び調査計画の策定	(1) 卒業論文設計の策定
	7 ～ 8	科内検討の実施	(1) 卒業論文設計検討会（科内）での発表及び計画内容の検討
	9 ～ 15	2 年生の卒論関連発表会等への出席	(1) 卒業論文発表会（科内）の聴講及び質疑応答への参加 (2) 卒業論文中間検討会（科内）の聴講及び質疑応答への参加 (3) 卒業論文発表会（科内・全体）の聴講及び質疑応答への参加

(2) 2 学年

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 ～ 1 月	1 ～ 6	調査研究の進め方	(1) 作業計画、調査計画の樹立 (2) 卒業論文設計発表会（科内）での発表
	7 ～ 18	調査法・観察法	(1) 課題解決のための調査・観察法 (2) 中間検討会（科内）での発表
	19 ～ 34	データ、資料収集	(1) データの収集、分析 (2) 資料の収集、読解
	35 ～ 60	結果の分析・評価・考察	(1) 結果の分析、とりまとめ (2) 卒業論文発表会（科内・全体）での発表

- 6 使用テキスト 無
- 7 参考図書 配付資料
- 8 評価の要素 卒論の内容 50 %、学習態度等 50 %

【（自由選択）毒物・劇物取扱講座】

- 1 科目区分： 共通専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年前期・1 単位
- 4 到達目標
農薬の一部が含まれる毒物・劇物の取扱を学び、毒物劇物取扱者資格の取得を目指す。
- 5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 9 月	1	毒物劇物取扱責任者	・ 毒物劇物取扱者資格試験受験について
		毒物及び劇物に関する法令 (1) 毒物及び劇物取締法	・ 毒物劇物の用語
			・ 劇毒法に出てくる言葉、劇毒法では何が禁止されているか
			・ 毒物、劇物を取り扱う事業者の法手続き
			・ 毒物、劇物の取扱い方に対する規制
	2		・ 毒物、劇物の譲渡、販売時の手続き
	3		・ 毒物・劇物の廃棄、運搬等に対する規制
	4		・ 「物質」とは何か？
	5		・ 化学式の書き方、モル
	6	基礎化学 (1) 物質の成り立ち	・ 溶液の性質と濃度の計算方法
	7	(2) 化学反応	・ 化学反応式
	8		・ 酸、塩基、酸化、還元
	9	(3) 化学物質の性質	・ 周期表、無機物、有機物
	10		・ 毒の作用の種類と解毒剤
	11	毒物及び劇物の性質と取扱方法 (1) 毒物、劇物の性質と毒性	・ 主な毒物・劇物の性質と毒性
	12		・ 毒物、劇物の貯蔵方法
	13	(2) 毒物、劇物の識別及び廃棄方法	・ 毒物、劇物の識別方法
	14		・ 毒物、劇物の廃棄方法
	15	試験	

- 6 使用テキスト 「わかりやすい毒物劇物取扱者試験」 弘文社
- 7 参考図書 「毒物劇物取扱者試験問題集」 公論出版
- 8 評価の要素 課題提出 80 %（資格試験合格 80 点）、受講態度 20 %

【（自由選択）簿記検定講座】

- 1 科目区分： 共通専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年後期・2 単位
- 4 到達目標
農業簿記検定試験（3級）又は日商簿記検定試験（3級）合格を目指す。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 0 5 1 1 月	1～7	【農業簿記】 1 農業簿記の概要 2 簿記一巡の手続き 3 勘定科目 4 収益・費用の記帳方法 5 流動資産・流動負債 6 固定資産 7 決算書の作成 【日商簿記】 1 諸取引の仕訳 2 試算表 3 期末整理事項 4 精算表 5 財務諸表 6 補助簿	模擬試験等の問題演習・解説 ・講義の内容は受講生の状況により変更します。 ・講義後に毎回宿題を課すので、次回に提出してください。 ・予習及び復習も必須です。資格取得のために意欲的な学習を期待します。
	8～15	総合演習	

- 6 使用テキスト 『農業簿記検定 教科書3級』『農業簿記検定 問題集3級』大原出版
『スッキリわかる日商簿記3級 テキスト/問題集』TAC出版
- 7 参考図書 『農業簿記検定 過去問題集3級』大原出版
『スッキリわかる日商簿記3級 本試験予想問題集』TAC出版
- 8 評価の要素 簿記検定試験（3級）結果・宿題提出80%、学習態度20%

【（自由選択）アーク溶接・刈払機取扱作業者安全衛生教育講習】

- 1 科目区分： 共通専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年通年・2 単位
- 4 到達目標
農業現場において使用機会の多い刈払機やアーク溶接の基本的な操作方法を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
5 月 3 月	1 ～ 4	刈払機	刈払機の基本操作 刈払機の作業実践
	5 ～ 15	アーク溶接 ・実務教育 7 時間以上 ・学科、実技 2 日間	アーク溶接の理論 アーク溶接作業実践

- 6 使用テキスト 配付資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 受講態度 20%、レポート等 80%

【（自由選択）フォークリフト運転技能講習】

- 1 科目区分： 共通専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年後期・1 単位
- 4 到達目標
農業現場において使用機会が多いフォークリフト（1 t 以上）の基本的な操作方法を習得し、資格取得を目指す。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
後 期	1～10	学科講習	走行に関する装置の構造等 荷役に関する装置の構造等 運転に必要な力学等 関係法令 修了試験
	11～23	技能講習	走行の操作 荷役の操作 修了試験

- 6 使用テキスト テキスト
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 受講態度 20%、レポート等 80%

【（自由選択）農業機械操作実習Ⅱ】

- 1 科目区分： 共通専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 2 学年前期・1 単位
- 4 到達目標

トラクタとトレーラの操作・運転技術を身に付け、けん引免許（農耕車に限る）の取得を目指す。なお、本実習が始まるまでに、大型特殊免許（農耕車以上）を取得すること。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 9 月	1～2	1 けん引の基本操作	(1) けん引の基本操作
	3～4		(2) 前後進、外周走行、車庫入れ、S字
	5～8	2 けん引の路上走行	(1) 道路交通法に従った路上走行練習
	9～10	3 けん引操作技能の評価	(1) 走行チェック①
	11～12	4 けん引の路上走行	(1) 道路交通法に従った路上走行練習
	13～14	5 けん引操作技能の評価	(1) 走行チェック②
	15～16	6 けん引の路上走行	(1) 道路交通法に従った路上走行練習
	17～18	7 技能試験受験準備	(1) 試験コースの説明、書類作成
	19～23	8 技能試験受験	(1) 運転免許センターでの受験

- 6 使用テキスト 配布資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 学習態度 50%、技術の到達度 50%

【（自由選択）進路対策講座】

- 1 科目区分： 共通専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時 期： 1 学年後期、2 学年前期
- 4 到達目標
各学生の進路実現のため、進路先に応じた学習を支援する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 学年・後期 ～ 2 学年・前期	1 ～ 15	(1) 公務員対策 (2) 編入学対策	(1) 農場管理員、動物管理員、公立学校実習助手等 (2) 小論文、その他必要な教科

- 6 使用テキスト 配布資料、参考書等
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 出席状況、学習態度 20%、課題等提出 80%

3 専門科目（水田・野菜・果樹・花き経営学科共通）

【 農業概論 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 水田・野菜・果樹・花き経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年前期・2 単位
- 4 到達目標

農作物の生育と環境に関する基礎知識や農業技術等の発達について総合的に学び、農業全般についての大局的な知識を取得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 9 月	1	1 人間生活と作物	(1) 作物の起源、種類と特徴
	2	2 作物栽培と環境	(1) 植物の生育と環境、農業生産と環境、栽培環境と構成要素、農業生態系と自然生態系、農業資源の持続的管理、農業のもつ環境保全機能
	3	3 気象的要素	(1) 気象と栽培環境、気象的要素とその計測、気象的要素の変動と作物の生長
	4		(2) 気候の栽培への応用、農業気象災害とその防止、環境汚染と地球環境の変化
	5	4 土壌的要素	(1) 作物と土壌のかかわり、土壌を構成するもの、土壌孔げきの構成とはたらき
	6		(2) 土壌の化学的性質、土壌からの窒素の供給・循環と微生物のはたらき、養分と作物栄養
	7		(3) 土壌の改良と管理、肥料の種類と施肥
	8	5 生物的要素	(1) 作物の病気とその防除
	9		(2) 作物の害虫とその防除
	10		(3) 雑草とその防除、鳥獣害とその防除、農薬とその使い方、総合的有害生物管理の考え方
	11	6 施設栽培の環境管理	(1) 環境管理のねらい
	12		(2) 地上部の物理環境の管理
	13		(3) 地下部の物理環境の管理、総合的な環境管理、施設内の労働環境
	14	農業技術総論	(1) 農業技術の発達
	15	試験	

- 6 使用テキスト 『農学基礎セミナー 作物の生育と環境』農山漁村文化協会
- 7 参考図書 『農学基礎セミナー 新版作物栽培の基礎』農山漁村文化協会
- 8 評価の要素 筆記試験 80%、学習態度 20%

【 病虫害基礎 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 水田・野菜・果樹・花き経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年後期・2 単位
- 4 到達目標

作物病虫害に関する基礎知識を習得し、防除法の基本を理解する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 0 ～ 2 月	1～2	1 作物の害虫	(1) 昆虫の形態と生理
	3		(2) 昆虫の分類
	4		(3) 昆虫の生態
	5～6		(4) 主要害虫の生態
	7	2 農薬	(1) 農薬とは
	8		(2) 農薬の種類と剤型及び使用法
	9	3 作物の病害	(1) 植物病理学とは。病気の感染と流行
	10		(2) 植物の病原体と特徴①
	11		(3) 植物の病原体と特徴②
	12		(4) 病気の種類と性質
	13		(5) 病害の防除
	14		(6) 殺菌剤とその使用
	15	4 試験	

- 6 使用テキスト 『応用昆虫学の基礎』・『植物病理学の基礎』農山漁村文化協会
『福島県病虫害防除指針』福島県植物防疫協会
- 7 参考図書 なし
- 8 評価の要素 筆記試験 80%、学習態度等 20%

【 植物生理 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 水田、野菜、果樹、花き経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年前期・1 単位
- 4 到達目標

植物の生命活動を支える現象とその機構を学び、農作物の栽培管理においてなぜこの時期に、この栽培管理を行うのかを考えることができるレベルの知識を身につける。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 ～ 9 月	1	1 植物の起源と進化	(1) 陸上植物の起源と進化を理解する。
	2	2 植物の構造と特徴	(1) 双子葉植物をおもな例にして、植物の構造と特徴を理解する。
	3	3 同化と異化 植物に特徴的な代謝	(1) 植物体内で行われる代謝について理解する。
	4	4 光合成	(1) 光合成機構の概略を理解する。
	5	5 形態形成と成長調節物質 光応答	(1) 植物ホルモンについて理解する。 (2) 植物の光に対する応答について理解する。
	6	6 栄養成長と生殖成長	(1) 植物の栄養成長と生殖成長を理解する。
	7	7 環境適応	(1) 植物の環境への適応機構を理解する。
	8	8 試験	

- 6 使用テキスト 『基礎生物学テキストシリーズ 植物生理学』化学同人、配布資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 筆記試験・課題提出 80%、受講態度等 20%

【 環境保全と農業 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 水田・野菜・果樹・花き経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 2 学年後期・2 単位
- 4 到達目標

農業と環境とのかかわりや食の安全・安心に向けた取組などについて理解を深め、環境と共生する農業のあり方や環境保全型農業の主要技術について学習する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 0 ～ 1 月	1～2	1 生物多様性の保全	(1) 熱帯雨林の減少とその要因 (2) 環境変化と生物多様性保全
	3～4	2 地域温暖化の原因と対策	(1) 地球温暖化のメカニズム (2) 地球温暖化が農業に及ぼす影響
	5～6	3 プラスチックごみ問題	(1) プラスチック再資源化の現状 (2) マクロプラスチック、その原因と対策
	7～8	4 地域環境と農業	(1) 農地の多面的機能と水環境保全 (2) 鳥獣害の原因と対策
	9～10	5 環境保全型農業技術	(1) 化学肥料・化学合成農薬低減技術 (2) 持続性の高い農業生産方式
	11～12	6 食の安全・安心につながる認証制度	(1) 有機栽培と特別栽培 (2) GAPの種類と特徴
	13～14	7 放射能汚染	(1) 放射能汚染の過去と今 (2) トリチウム水等汚染物質の処分
	15	8 試験	

- 6 使用テキスト 配付資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 筆記試験 80 %、学習態度等 20 %

【 有機農業 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 水田・野菜・果樹・花き経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 2 学年前期・1 単位
- 4 到達目標

有機農業の理解を深め、それぞれの技術を通して循環型農業の必要性を考える。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 9 月	1	有機農業と有機農産物認証制度	(1) 有機農業の歴史・基本理念、 有機JAS制度
	2	有機農業における土と肥料	(1) 土壌の特性、堆肥、ぼかし肥 料、土づくり
	3	有機栽培技術(水稻)	(1) 水稻の有機栽培技術（育苗、 除草法等）
	4	有機栽培技術（野菜・畑作）	(1) 野菜・畑作の有機栽培技術 （主な作目ごとの育苗、定植、管 理法）
	5	有機農産物の流通・販売	(1) 有機農産物の需要と流通・販 売実態、販売の課題と対策
	6～7	有機栽培の実際	(1) 有機栽培圃場の運営、作物の 生育・管理について（現地研修）
	8	試験	

- 6 使用テキスト 配付資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 筆記試験 80%、学習態等 20%

【 農産物流通 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 水田・野菜・果樹・花き経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 2 学年前期・1 単位
- 4 到達目標

農産物・食品の流通システムの知識を習得するとともに、流通の現場や直売所などの現状を確認し、流通における安定性、安全性、効率性を理解する。そして、農業経営の合理化を図る能力と態度を身に付ける。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月	1～2	1 農産物流通の基礎	(1) 農産物流通の基礎知識 (2) 農産物の流通
	3～6	2 農産物流通の実際 ・市場流通 ・市場外流通	(1) 農産物市場の見学 (2) 6次産業化の優良事例 (3) 農産物直売所
	7	3 農産物流通の課題	(1) グループに分かれ課題を洗い出す (2) 課題解決のための方策を考える
	8	4 発表	(3) 発表内容を評価する

- 6 使用テキスト 無
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 課題提出・レポート作成 80%、学習態度等 20%

【 農学実験 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 水田・野菜・果樹・花き経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年通年・1 単位
- 4 到達目標
植物病害虫の診断・同定、土壌診断・分析方法を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 ～ 3 月	1 ～ 4	植物病理・昆虫の同定と診断	(1) 病害虫の診断・同定
	5 ～ 8		(2) 農薬の生物検定
	9 ～ 15	土壌肥料の分析・診断	(1) 土壌断面調査 (2) p H、E C 等の分析 (3) 中和石灰量 (4) 窒素、リン酸、カリの簡易分析

- 6 使用テキスト 配付資料
- 7 参考図書 『図解 やさしい農学実験』
- 8 評価の要素 提出課題 50 %、学習態度等 50 %

4 専門科目（水田経営学科）

【 先進農家等留学研修 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年前期、5 単位
- 4 到達目標

先進的な農業を実践している農業者・農業法人の経営や技術、生活を実際に体験することにより、農業に対する取組や考え方を直接肌で感じ取り、豊かな農業観や職業観を学ぶ。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
5 月	1	1 説明会	先進農家等留学研修の説明
	2	2 実施計画	実施計画の作成
	3～ (2 週間)	3 研修	実施計画に基づく研修の実施

- 6 使用テキスト 無
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 実習報告書・レポート 50%、学習態度・受入農家の評価 50%

【 水田経営研修 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 水田経営学科
- 3 時期及び単位数： 1 ～ 2 学年 ・ 2 単位
- 4 到達目標
県内外の先進的な取組や流通・販売、さらには関係機関や施設等を見学することにより、農業に関する幅広い知識を習得する。

5 講義内容

(1) 1 学年

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 ～ 3 月	1 ～ 4	県内研修	水田作について、県内で学習する。
	5 ～ 8	県内研修	水田作について、県内で学習する。
	9 ～ 16	県外研修	水田作について、県外で学習する。
2 月	17 ～ 40	海外留学研修 (もしくは企画研修)	

(2) 2 学年

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 ～ 3 月	1 ～ 4	県内研修	水田作について、県内で学習する。

- 6 使用テキスト 配布資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 学習態度 50 %、課題提出 50 %

【 水田経営基礎 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 水田経営学科
- 3 時期及び単位数： 1 学年前期・2 単位
- 4 到達目標
 水稻、主要畑作物の形態、生態、生育、栽培管理などについて、基礎的な知識を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 9 月	1 ～ 5	水稻	水稻の形態、生態、生育、栽培管理、気象災害の基礎
	6 ～ 8	麦類	小麦及び大麦の形態、生態、生育、栽培管理の基礎
	9 ～ 11	豆類	大豆及び小豆、落花生の形態、生態、生育、栽培管理の基礎
	12, 13	イモ類	バレイショ及びカンショの形態、生態、生育、栽培管理の基礎
	14	ソバ	ソバの形態、生態、生育、栽培管理の基礎
	15	試験	

- 6 使用テキスト 『新版 作物栽培の基礎』農山漁村文化協会、配付資料
- 7 参考図書 『福島県稲作・畑作指導指針』
- 8 評価の要素 筆記試験 80 %、学習態度 20 %

【 水田経営応用 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 水田経営学科
- 3 時期及び単位数： 1年生後期・2単位
- 4 到達目標
 水稻、主要畑作物の分類、起源、生育診断技術、栽培管理技術、流通等について学び、経営基礎から更に深化した知識を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 0 ～ 2 月	1～4	水稻	水稻の施肥設計、病虫害及び雑草防除、生育診断技術及び出穂期前後の管理、収穫・乾燥調製技術、玄米の品質及び流通
	5～7	麦類	麦類の分類、起源、品種及び小麦粉の品質、栽培管理、流通、加工適性
	8, 9	豆類（主に大豆）	豆類の分類、起源、形態、品種及び品質、栽培管理、流通、加工適性
	10～12	イモ類	バレイショ及びカンショ、コンニャクの分類、起源、品種、栽培管理、加工適性
	13	ソバ	ソバの分類、起源、形態、栽培管理、加工
	14	G A P	G A P の概要
	15	試験	

- 6 使用テキスト 『新版 作物栽培の基礎』農山漁村文化協会、
『作物学の基礎Ⅰ 食用作物』農山漁村文化協会、配布資料
- 7 参考図書 『福島県稲作・畑作指導指針』
- 8 評価の要素 筆記試験 80%、学習態度 20%

【 水田経営実践 】（稲作専攻）

- 1 科目区分：専門科目
- 2 対象学科：水田経営学科稲作専攻
- 3 時期及び単位数：2 学年通年・2 単位
- 4 到達目標

稲作経営の現状や課題、低コスト省力化技術、放射性物質吸収抑制技術等について学び、実践的な栽培及び経営能力を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 1 月	1～2	稲作概論	稲作関連の施策（国、県）、米の生産と消費の特徴
	3～4	環境と気象災害	水田土壌の特徴、本田管理、気象災害と対策
	5～6	米の品質と食味	米の種類と性質、良食味米の特性、貯蔵、搗精
	7	米の品種	種苗法、品種の特性と利用例
	8～10	稲作技術	技術の内容と利用例（直播栽培、スマート農業など）
	11	放射性物質の吸収抑制	技術の概要
	12～13	土地利用型作物の経営	経営の特徴と課題
	14	G A P の実践	卒論ほ場におけるリスク評価
	15	試験	

- 6 使用テキスト 『作物栽培の基礎』農山漁村文化協会、配付資料
- 7 参考図書 『福島県稲作・畑作指導指針』
- 8 評価の要素 試験成績、受講態度、出席状況により評価
試験成績 80 %、受講態度 10 %、出席状況 10 %

【 水田経営実践 】（畑作専攻）

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 水田経営学科畑作専攻
- 3 時期及び単位数： 2年生通年・2単位
- 4 到達目標

畑作経営の現状や課題、低コスト省力化技術、放射性物質吸収抑制技術等について学び、実践的な栽培及び経営能力を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 1 月	1、2	畑作概論	畑作物の国内・国外での状況、ゲタ・ナラシ対策、経営の特徴
	3～7	畑作物の栽培	各品目別の栽培（作付け様式、管理作業など）
	8	連作障害と対策	連作障害の原因と対策
	9	田畑輪換、転換畑土壌の特徴	田畑輪換の効果と課題、水田化・畑地化するためのポイント
	10、11	農業経営のリスクマネジメント	単一経営と複合経営、リスクマネジメント、農業版BCP
	12	放射性物質の吸収抑制対策	放射性物質、食品の基準値、吸収抑制対策
	13	卒論	卒論関連文献の読解、畑作物の調査方法
	14	GAPの実践	卒論ほ場におけるリスク評価
	15	試験	

- 6 使用テキスト 『作物栽培の基礎』農山漁村文化協会
- 7 参考図書 『福島県稲作・畑作指導指針』
- 8 評価の要素 試験成績、受講態度、出席状況により評価
試験成績80%、受講態度10%、出席状況10%

【 食品製造演習 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 水田経営学科
- 3 時期及び単位数： 1 学年通年・2 単位
- 4 到達目標

本校及び県内で生産される園芸品目を主とした加工を行い、農産加工に関する基礎技術を習得するとともに、加工による付加価値化の意義を理解する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
6 月 1 0 月 2 月	1～2	食品表示	食品表示の知識の習得
	3～4	殺菌	殺菌の方法の習得
	5～6	いも加工	食品加工の意義の習得 やきいも等の加工
	7～8	小麦加工	発酵に関する知識の習得① 餃子加工
	9～10	そば加工	そばに関する知識の習得 そば打ち
	11～12	米粉加工	米粉に関する知識の習得 米粉パン加工
	13	米加工	発酵に関する知識の習得 麴作り
	14～15	大豆加工	大豆や味噌の加工に関する知識の 習得 味噌加工

- 6 使用テキスト 無
- 7 参考図書 配布資料
- 8 評価の要素 課題提出 80%、学習態度等 20%

5 専門科目（野菜経営学科）

【 先進農家等留学研修 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年前期、5 単位
- 4 到達目標

先進的な農業を実践している農業者・農業法人の経営や技術、生活を実際に体験することにより、農業に対する取組や考え方を直接肌で感じ取り、豊かな農業観や職業観を学ぶ。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
5 月	1	1 説明会	先進農家等留学研修の説明
	2	2 実施計画	実施計画の作成
	3～ (2 週間)	3 研修	実施計画に基づく研修の実施

- 6 使用テキスト 無
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 実習報告書・レポート 50%、学習態度・受入農家の評価 50%

【 野菜経営研修 】

1 科目区分： 専門科目

2 対象学科： 野菜学科

3 時期及び単位数： 1～2 学年、2 単位

4 到達目標

県内外の先進的な取組や流通・販売、さらには関係機関や施設等を見学することにより、農業に関する幅広い知識を習得する。

5 講義内容

(1) 1 学年

時期	回	項 目	講 義 内 容
6 月	1～4	県内研修	トマト栽培について、県南地方の先進農家等にて、学習する。
10月	5～8	県外研修	野菜栽培の先進技術等について、関東圏の展示会や農業法人の見学を通して学習する。
1 月	9～16	県内研修	イチゴ栽培について、県中地方の先進農家等にて、学習する。
2 月	17～40	海外留学研修 (もしくは企画研修)	

(2) 2 学年

時期	回	項 目	講 義 内 容
6 月	1～4	県内研修	野菜の流通やキュウリ栽培について、県中地方の先進農家にて、学習する。

6 使用テキスト 配布資料

7 参考図書 無

8 評価の要素 提出物の内容、学習態度、出席状況により評価
提出物 50 %、態度 30 %、出席 20 %

【 野菜生産概論 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 野菜経営学科
- 3 時期及び単位数： 1 学年前期・1 単位
- 4 到達目標
野菜栽培に必要な野菜の生理生態、栽培管理等の基礎知識を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 ～ 9 月	1	野菜栽培の基礎	野菜栽培に関する用語の解説
	2～3	野菜園芸について	野菜の種類と分類、野菜の栄養、野菜の生産と消費
	4～6	野菜の成長と発育	種子と発芽、根の発達と肥大、茎葉の生育と結球、休眠、花芽の分化と果実肥大
	7～9	環境反応と代謝	環境と成長、光合成と呼吸・転流・代謝、無機養分の働きと吸収・移行、窒素同化
	10～14	栽培技術の基本	作型と成り立ち、育苗、土壌管理と施肥、栽培管理、病虫害・雑草防除
9 月	15	試験	

- 6 使用テキスト 『野菜園芸学の基礎』農山漁村文化協会、配布資料
- 7 参考図書 なし
- 8 評価の要素 試験成績および受講態度、出席状況により評価する。
試験成績 80 %、受講態度 20 %

【 野菜栽培各論 】

1 科目区分： 専門科目

2 対象学科： 野菜経営学科

3 時期及び単位数： 1 学年後期・1 単位

4 到達目標

主要な野菜の生理生態、栽培管理技術（肥培管理、病虫害防除を含む）等の知識を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 0 ～ 2 月	1～2	施設環境と施設栽培	施設の種類と特徴、被覆資材の種類と特徴、施設環境と環境制御
	3～4	作型と栽培体系①	施設利用型野菜の作型、ナス科果菜類（トマト、ピーマン、ナス 他）ウリ科果菜類（キュウリ 他）の栽培
	5	作型と栽培体系②	品種利用型野菜と周年栽培 葉茎菜類（ホウレンソウ、タマネギ 他）の栽培
	6～7	作型と栽培体系③	特殊な作型の野菜（イチゴ、アスパラガス）の栽培
	8～9	作型と栽培体系④	その他の野菜の栽培（マメ科、イネ科、イモ類 等）
	10～11	多様な栽培方法	養液栽培・植物工場、有機栽培・特別栽培、隔離床栽培
	12	鮮度保持と流通	呼吸と蒸散、鮮度保持技術、流通と予冷
	13	GAPの実践	帳票作成
	14		リスク評価
2 月	15	試験	

6 使用テキスト 『野菜園芸学の基礎』農山漁村文化協会、配布資料

7 参考図書 無

8 評価の要素 試験成績および受講態度、出席状況により評価する。
試験成績 80%、受講態度 20%

【 野菜経営各論 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 野菜経営学科
- 3 時期及び単位数： 2 学年前期・後期、2 単位
- 4 到達目標

福島県における主要な野菜の経営特性や営農計画の作成方法等について学び、野菜経営を行う上で必要な知識と判断力を身に付ける。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 ～ 9 月	1	多様な働き方	家計管理とライフプランニング、現代における様々な労働形態について理解する
	2	農業経営の概要	福島県における農業経営および野菜を基幹品目とした経営の概要について理解する。
	3～5	福島県における野菜経営の主要品目	(1)キュウリの経営特性を理解する。 (2)トマトの経営特性を理解する。 (3)アスパラガスの経営特性を理解する。
	6～7	野菜経営におけるマーケティング	(1)有機栽培認証、GAP認証取得が経営に及ぼす影響について理解する。 (2)福島県における野菜の流通・販売手法について理解する。
	8～9	野菜経営における6次化	野菜経営における6次化の手法や特性について理解する。
10 ～ 1 月	10～12	営農計画の作成	(1)栽培計画の作成について理解する (2)施肥設計、農薬倍率等の計算を理解する。 (3)営農計画作成、経済性評価方法を理解する。 (4)新規就農のための国・県等の政策について理解する。
	13～14	新規就農のための手引き	(1)農業経営を開始するための必要な手続きについて理解する。 (2)農業経営の法人化について理解する。
1月	15	試験	

- 6 使用テキスト 配布資料
- 7 参考図書 『高校向け 金融経済教育指導教材』金融庁、『開業から1年目までの個人事業・フリーランスの始め方と手続き・税金』日本実業出版
- 8 評価の要素 試験成績および受講態度、出席状況により評価する。
試験成績 80%、受講態度等 20%

【 食品製造演習 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 野菜経営学科
- 3 時期及び単位数： 1 学年通年、2 単位
- 4 到達目標

本校及び県内で生産される園芸品目を主とした加工を行い、農産加工に関する基礎技術を習得するとともに、加工による付加価値化の意義を理解する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
6 月 1 0 月 2 月	1～2	食品表示	食品表示の知識の習得
	3～4	殺菌	殺菌の方法の習得
	5～6	果実加工	瓶詰め加工技術の習得 ジャム加工
	7～8	漬物加工	浸透圧や水分活性に関する知識の 習得 ピクルス加工
	9～10	大豆加工	大豆に関する知識の習得 豆腐加工
	11～12	レトルト加工	加熱殺菌やレトルト加工に関する 知識の習得 カレーのレトルト加工
	13	米粉加工	米粉に関する知識の習得 米粉パン加工
	14～15	いも加工	食品加工の意義の習得 やきいも等の加工

- 6 使用テキスト なし
- 7 参考図書 配布資料
- 8 評価の要素 課題提出 80 %、学習態度等 20 %

6 専門科目（果樹経営学科）

【 先進農家等留学研修 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年前期、5 単位
- 4 到達目標

先進的な農業を実践している農業者・農業法人の経営や技術、生活を実際に体験することにより、農業に対する取組や考え方を直接肌で感じ取り、豊かな農業観や職業観を学ぶ。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
5 月	1	1 説明会	先進農家等留学研修の説明
	2	2 実施計画	実施計画の作成
	3～ (2 週間)	3 研修	実施計画に基づく研修の実施

- 6 使用テキスト 無
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 実習報告書・レポート 50%、学習態度・受入農家の評価 50%

【 果樹経営研修 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 果樹経営学科
- 3 時期及び単位数： 1～2 学年・2 単位
- 4 到達目標

県内外の先進的な取組や流通・販売、さらには関係機関や施設等を見学することにより、農業に関する幅広い知識を習得する。

5 講義内容

(1) 1 学年

時期	回	項 目	講 義 内 容
6 月	1～4	県内研修	果樹研究所を視察し、最新の研究について学習する。
12月	5～8	県内研修	果樹栽培の盛んな県北地方で開催されるせん定指導会に参加し、その技術を学ぶ。
2 月	9～33	海外留学研修 (もしくは企画研修)	

(2) 2 学年

時期	回	項 目	講 義 内 容
6 月	1～8	県外研修	県外において、果樹に関して特色のある取り組みをしている生産者、関連機関等を訪問し、見識を深める。
10月	9～12	県内研修	県内の先進農家を訪問し、栽培技術や経営のポイントについて学習する。

- 6 使用テキスト 無
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 学習態度 50%、学習報告（レポート提出） 50%

【 果樹生産概論 】

- 1 科目区分： 必修科目
- 2 対象学科： 果樹経営学科
- 3 時期及び単位数： 1 学年前期・2 単位
- 4 到達目標

安定して品質のよい果実を収穫するために、果樹園芸学の基礎を理解する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 9 月	1	果樹園芸の起源と特徴	果樹園芸と果樹園芸学、果樹栽培の起源と原産地、果樹栽培の現状、果実の栄養・機能性と利用、果実の流通と経営
	2～3	果樹の種類・品種と育種	果樹の分類、種類と品種、果樹の育種
	4～5	果樹の栽培適地と開園	果樹栽培の適地、苗木の生産と植付け、果樹園の開設・整備、施設栽培
	6～7	果樹の成長と生産力	果樹のライフサイクルと年間の成長、果樹の物質生産と生産力、果樹の成長と植物ホルモン
	8～9	果樹の成長と栽培	枝・葉の成長と樹勢、花芽形成と開花・結実、果実の発育と成熟、収穫後の果実の取り扱い
	10～11	施肥と土壌管理	樹体の栄養と施肥、水分生理・水管理と土壌管理
	12	生理障害、自然災害、病虫害の防除	生理障害、自然災害、病虫害の防除
	13	本校における病虫害防除	防除の考え方、防除暦の作成方法、農薬の登録上の確認
	14	整枝・せん定	枝の伸び方と整枝・せん定の基本、整枝の方法
	15	試験	

- 6 使用テキスト 『果樹園芸学の基礎』農山漁村文化協会、配付資料
- 7 参考図書 『最新果樹園芸学』朝倉書店
- 8 評価の要素 筆記試験 80 %
学習態度（学習態度 10 %、学習報告（ノート提出） 10 %）

【 果樹栽培各論 】

- 1 科目区分： 必修科目
- 2 対象学科： 果樹経営学科
- 3 時期及び単位数： 1 学年後期・2 単位
- 4 到達目標
本校で栽培している品目を中心に、それぞれの栽培方法を理解する。
- 5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 0 ～ 2 月	1	果樹の種類と果樹栽培の動向	果樹の種類と果実の利用、果樹栽培の動向
	2～3	モモ	栽培上の特性と品種、生育のすがたと栽培管理、収穫・選別・出荷・貯蔵、植え付けと更新、本県の栽培管理
	4～5	ナシ	栽培上の特性と品種、生育のすがたと栽培管理、収穫・選別・出荷・貯蔵、植え付けと更新、本県の栽培管理
	6～7	ブドウ	栽培上の特性と品種、生育のすがたと栽培管理、収穫・選別・出荷・貯蔵、植え付けと更新、本県の栽培管理
	8～9	カキ	栽培上の特性と品種、生育のすがたと栽培管理、収穫・選別・出荷・貯蔵、植え付けと更新、本県の栽培管理
	10～11	リンゴ	栽培上の特性と品種、生育のすがたと栽培管理、収穫・選別・出荷・貯蔵、植え付けと更新、本県の栽培管理
	12	カンキツ類	栽培上の特性と品種、生育のすがたと栽培管理、収穫・選別・出荷・貯蔵、植え付けと更新
	13	その他の果樹（オウトウ）	栽培・経営上の特性、適地、品種、栽培管理、本県の栽培管理
	14	その他の果樹（ウメ、スモモ、ビワ、クリ、キウイフルーツ、イチジク、ブルーベリー、マンゴー）	栽培・経営上の特性、適地、品種、栽培管理
	15	試験	

- 6 使用テキスト 『果樹』実教出版、配付資料
- 7 参考図書 『最新果樹園芸学』朝倉書店
- 8 評価の要素 筆記試験 80％、
学習態度（学習態度 10％、学習報告（ノート提出）10％）

【 果樹経営各論 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 果樹経営学科
- 3 時期及び単位数： 2年生通年・2単位
- 4 到達目標
果樹経営を行う上で必要な実践的な知識を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 ～ 9 月 1 0 ～ 1 月	1～2	農業の動向と農業経営	日本と世界の農業、農業経営の動向、食料消費の動向と社会経済環境、食料・農業・農村政策と関係法規
	3～5	農業のマネジメント	農業マネジメント、生産のマネジメント、組織のマネジメント、会計のマネジメント、リスクのマネジメント
	6～7	農業のマーケティング	農業マーケティングの概要、農業のマーケティング戦略、農産物のブランド化
	8～9	農業経営のマーケティング活動	市場調査と環境分析、市場調査・環境分析の進め方、農業経営の設計の診断
	10～11	果樹農家の実践例の診断、農業経営の設計	果樹農家の実践例をもとに経営診断と経営設計の流れを掴む。
	12～13	実践テーマの探索、課題設定・計画立案	果樹経営上の課題を設定し、それを解決するための方法・計画を考える。
	14	発表、まとめ	10～13回の内容を発表・共有し、まとめを行う。
	15	試験	

- 6 使用テキスト 『農業経営』 実教出版、配布資料
- 7 参考図書 『東大卒、農家の右腕になる。小さな経営改善ノウハウ100』 ダイヤモンド社
- 8 評価の要素 筆記試験 80%、
学習態度（学習態度 10%、学習報告（ノート提出） 10%）

【 食品製造演習 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 果樹経営学科・畜産経営学科
- 3 時期及び単位数： 1 学年通年・2 単位
- 4 到達目標

本校及び県内で生産される園芸品目を主とした加工を行い、農産加工に関する基礎技術を習得するとともに、加工による付加価値化の意義を理解する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
6 月 1 0 月 2 月	1～2	食品表示	食品表示の知識の習得
	3～4	殺菌	殺菌の方法の習得
	5～6	果実加工	瓶詰め加工技術の習得 ジャム加工
	7～10	畜産物加工	食肉加工（ソーセージ）
	11～12	レトルト加工	加熱殺菌やレトルト加工に関する知識の習得 カレーのレトルト加工
	13	卵加工	鶏卵やその加工品に関する知識の習得 マヨネーズ加工
	14～15	乳加工	乳やその加工品に関する知識の習得 アイスクリーム加工

- 6 使用テキスト なし
- 7 参考図書 配布資料
- 8 評価の要素 課題提出 80%、学習態度等 20%

7 専門科目（花き経営学科）

【 先進農家等留学研修 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年前期、5 単位
- 4 到達目標

先進的な農業を実践している農業者・農業法人の経営や技術、生活を実際に体験することにより、農業に対する取組や考え方を直接肌で感じ取り、豊かな農業観や職業観を学ぶ。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
5 月	1	1 説明会	先進農家等留学研修の説明
	2	2 実施計画	実施計画の作成
	3～ (2 週間)	3 研修	実施計画に基づく研修の実施

- 6 使用テキスト 無
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 実習報告書・レポート 50%、学習態度・受入農家の評価 50%

【 花き経営研修 】

1 科目区分： 専門科目

2 対象学科： 花き経営学科

3 時期及び単位数： 1～2 学年・2 単位

4 到達目標

県内外の先進的な取組や流通・販売、さらには関係機関や施設等を見学することにより、農業に関する幅広い知識を習得する。

5 講義内容

(1) 1 学年

時期	時限	項 目	講 義 内 容
7 月	1～4	県内研修	県内の先進的な花き生産の経営体にて、その取り組みや経営戦略を学習する。
10 月	5～8	県外研修	花き生産の先端技術等について関東圏の展示会等を通じて学習する。
1 月	9～12	県外研修	関東圏の展示会にて花きの商品性および利用方法について理解を深める。
2 月	13～37	海外農業研修 (もしくは企画研修)	

(2) 2 学年

時期	時限	項 目	講 義 内 容
7 月	1～4	県内研修	県内の花き生産者および関係機関にて、その取り組みや経営戦略を学習する。
9 月	5～8	県内研修	農業総合センターを視察し、花き栽培の最新技術について学習する。

6 使用テキスト 無

7 参考図書 無

8 評価の要素 出席状況 20%、研修態度 30%
レポート 50%(提出状況 10%、書き方 20%、内容 20%)

【 花き生産概論 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 花き経営学科
- 3 時期及び単位数： 1 学年前期・2 単位
- 4 到達目標
花き全般に関する生育や環境、開花、繁殖、利用などの基礎知識を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 9 月	1 ～ 2	花きの利用	花き園芸の特徴、生産・流通・消費の現状、 種類と分類方法
	3 ～ 6	花きの成長・開花と環境	生活環、発芽・生育・開花と環境 要因、作型、 植物生長調節物質の利用
	7 ～ 8	花きの繁殖	花きにおける種子繁殖と栄養繁殖 の種類と特徴
	9	花きの育種	育種の意義、特徴、方法、バイオ テクノロジーの活用、品種の保護
	10～12	花きの生産技術と施設	花きにおける土壌、養分吸収、施肥、 連作障害、生産施設・資材の 種類と特徴
	13～14	品質管理	花きの病害虫と防除、花き品質の 要素、品質低下の要因、品質評 価、品質保持技術
	15	試験	

- 6 使用テキスト 『新版 草花栽培の基礎』農山漁村文化協会、配付資料
- 7 参考図書 『花卉園芸学の基礎』農山漁村文化協会
- 8 評価の要素 筆記試験、学習態度、出席状況で評価する。
筆記試験 80%（本試験40%、小テスト・レポート40%）
学習態度 10%（授業に取り組む姿勢）
出席状況 10%（出欠・遅刻）

【 花き栽培各論 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 花き経営学科
- 3 時期及び単位数： 1 学年後期・2 単位
- 4 到達目標

本県における主要花き品目の生理生態及び栽培管理技術の知識を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 0 月	1	福島県の花き生産について	福島県の花き生産の特徴（品目、時期、出荷量等）、花き生産の動向について
	2～3	キク	生育・生態生理の特徴、栽培管理
	4～5	宿根カスミソウ	生育・生態生理の特徴、栽培管理
	6～7	リンドウ	生育・生態生理の特徴、栽培管理
	8～9	トルコギキョウ	生育・生態生理の特徴、栽培管理
	10	シクラメン	生育・生態生理の特徴、栽培管理
	11	枝物類	生育・生態生理の特徴、栽培管理
	12～14	その他（球根類、低温開花性花き、花壇用苗物等）	生育・生態生理の特徴、栽培管理
	15	試験	

- 6 使用テキスト 『新版 草花栽培の基礎』農山漁村文化協会、配付資料
- 7 参考図書 『花卉園芸学の基礎』農山漁村文化協会
- 8 評価の要素 筆記試験、学習態度、出席状況で評価する。
 筆記試験 80%（本試験40%、小テスト・レポート40%）
 学習態度 10%（授業に取り組む姿勢）
 出席状況 10%（出欠・遅刻）

【 花き経営各論 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 花き経営学科
- 3 時期及び単位数： 2 学年通期・2 単位
- 4 到達目標

花き経営を行う上で必要な実践的な知識について理解する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 9 月	1	農業経営の現状	現在の農業を取り巻く状況、農業経営の現状
	2～4	花き経営の特徴	花き経営の特徴、事例紹介、生産、流通、輸出入の現状
	5～7	花き経営における技術、マーケティング	日持ち性向上技術、MPS、生産・流通・販売における新技術、戦略等
	8	試験	
1 0 月 1 月	9～13	営農計画の作成	ほ場図作成、栽植密度計算、栽培計画作成、施肥設計、農薬使用量計算、収量計算
	14～15	計画の発表、まとめ	9～13回の内容を発表・共有し、まとめを行う。

- 6 使用テキスト 『切り花の日持ち技術』農山漁村文化協会、配付資料
- 7 参考図書 『新版 草花栽培の基礎』農山漁村文化協会
- 8 評価の要素 筆記試験、学習態度、出席状況で評価する。
 筆記試験 80%（本試験40%、小テスト・レポート40%）
 学習態度 10%（授業に取り組む姿勢）
 出席状況 10%（出欠・遅刻）

【 フラワーデザイン演習 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 花き経営学科
- 3 時期及び単位数： 1 学年後期・2 単位
- 4 到達目標

現在のトレンド（流行）や消費者の志向を把握し、生産に反映させる。また、色彩や現在のライフスタイルに適応した花の飾り方を学び、感性を高める。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 0 5 2 月	1 ～ 3	花き生産・販売の傾向と対策 ミニアレンジ実習	(1) トrend（流行）を知る (2) 花き生産の方向性と店舗経営 (3) アレンジの基本
	4, 5	花き加工実習（アレンジ）	花きの付加価値を高める技術（アレンジメントとラッピング）
	6, 7	冠婚葬祭と花き	(1) 冠婚葬祭と花きのかかわり (2) 効率的生産と販売
	8, 9	花き加工実習（ブーケ）	(1) 冠婚葬祭における花きのトレンドと付加価値を高める技術
	10, 11	ショップシミュレーション	(1) 目的別の花選び (2) 接客演習
	12, 13	インテリアとしての花きと販売 インテリアアレンジ実習	色彩やインテリアとしての花き
	14, 15	花き加工実習（ドライフラワー）	廃棄率削減とインテリア的使用を考えた加工（ドライフラワーのアレンジ）

- 6 使用テキスト 『フラワーデザイナーのための花の教科書』
(日本フラワーデザイナー協会)
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 課題提出・実技試験等 80%、受講態度20%

8 専門科目（畜産経営学科）

【 畜産概論 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 畜産経営学科
- 3 時期及び単位数： 1 学年前期・1 単位
- 4 到達目標
畜産について基礎的な知識を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月	1	わが国の畜産の沿革と特徴	家畜と人間生活（畜産の意味、畜産の歩み）
	2	家畜の主要品種の特徴	牛・豚・鶏の主要品種の改良と特徴
	3	家畜の一生と生産、畜産経営体の特徴	乳牛のライフサイクルと酪農経営
	4		肉用牛のライフサイクルと肉用牛経営
	5		豚・鶏のライフサイクルと養豚・養鶏経営
	6	主要畜産物の生産に関与する要因	乳・肉の生産に関与する要因
	7	家畜飼養管理とアニマルウェルフェア	家畜飼養管理と動物福祉、牛トレーサビリティ制度、GAP
	8	試験	

- 6 使用テキスト 『家畜人工授精講習会テキスト』（一社）日本家畜人工授精師協会、
『新版 家畜飼育の基礎』農文協
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 試験成績 80%、学習態度（出席状況、提出物含む）20%

【 家畜育種学 】

1 科目区分： 専門科目

2 対象学科： 畜産経営学科

3 時期及び単位数： 1 学年後期・1 単位

4 到達目標

家畜育種や改良の仕組み、能力検定、登録制度について理解し、家畜の交配計画を立てることができる。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 0 3 月	1	家畜の遺伝の原理	遺伝の仕組み
	2		質的形質と量的形質、表現型値と遺伝的パラメータ
	3	家畜の主要形質の遺伝	性、毛色、血液型、遺伝的不良形質、DNA多型
	4	家畜の選抜・交配方法及び特徴、能力検定	選抜方法（個体選抜、家系選抜、複数形質の選抜、外貌、遺伝性疾患）
	5		交配方法（近交系間交配、系統間交配、品種間交配）
	6		育種目標と能力検定（後代検定、牛群検定、産肉能力検定）
	7	家畜の登録制度	乳用牛の登録、和牛の登録
	8	試験	

6 使用テキスト 『家畜人工授精講習会テキスト』（一社）日本家畜人工授精師協会

7 参考図書 『新家畜育種学』朝倉書店

8 評価の要素 試験成績 80%、学習態度（出席状況、提出物含む）20%

【 家畜繁殖学Ⅰ 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 畜産経営学科
- 3 時期及び単位数： 1 学年後期・1 単位
- 4 到達目標
家畜の繁殖生理を理解し、家畜人工授精技術に関する基礎的知識を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
1 0 3 月	1	繁殖機能に係るホルモン及び神経	内分泌概論
	2, 3	性ホルモンの種類及び作用	繁殖に関連する主なホルモン
	4	繁殖の周期性及び性成熟	発情周期とその制御・調節機構
	5	受精と着床	牛の妊娠と分娩（授精・発生、胎子胎膜の発育と着床）
	6	妊娠	牛の妊娠と分娩（妊娠の経過と妊娠診断）
	7	分娩	牛の妊娠と分娩（分娩と産褥、繁殖障害）
	8	試験	

- 6 使用テキスト 『家畜人工授精講習会テキスト』（一社）日本家畜人工授精師協会
- 7 参考図書 配付資料
- 8 評価の要素 試験成績 80 %、学習態度（出席状況、提出物含む） 20 %

【 家畜繁殖学Ⅱ 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 畜産経営学科
- 3 時期及び単位数： 2 学年前期・2 単位
- 4 到達目標

家畜繁殖の応用理論を理解し、家畜人工授精技術に関する基礎的知識を習得する。

- 5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月	1	雄牛の性成熟と繁殖供用	雄牛の生殖周期、性成熟、繁殖供用開始適期、加齢と繁殖供用の限界
	2	精子の形成と成熟	精子形成、精子の移送と成熟、精子の形成と成熟の調節機能
	3	精子の形態と機能	精子の形態と構造、精子の機能
	4	牛の交尾・射精と精液	交尾・射精、精液、雄牛の繁殖障害
	5～7	種付け理論	雌牛生殖器内における精子及び卵子の移動及びその変化、授精適期
	8	牛の人工授精技術の意義と法規制	人工授精の意義、人工授精の法規制、家畜人工授精師の免許制度
	9	精液の採取と検査	精液の採取方法、採精の技術的工夫、精子の機能に影響を及ぼす要因、精子精液の検査
	10	精子の選別分取処理、精液の凍結保存	精子選別の原理と歴史、性選別精液の人工授精、細胞凍結保存の理論、精液の凍結保存技術
	11	凍結精液の保管と取り扱い	凍結精液の保管、凍結精液の取り扱い、凍結精液の融解、融解精液の温度管理
	12	精液の注入	精液注入手技
	13	人工授精技術における衛生管理	人工授精用器具器財の滅菌と消毒、人工授精業務の衛生管理
	14	受精卵移植技術	体内受精卵移植技術、体外受精卵移植技術
	15	試験	

- 6 使用テキスト 『家畜人工授精講習会テキスト』（一社）日本家畜人工授精師協会
- 7 参考図書 配布資料
- 8 評価の要素 試験成績 80 %、学習態度（出席状況、提出物含む） 20 %

【 家畜栄養学 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 畜産経営学科
- 3 時期及び単位数： 1 学年後期・1 単位
- 4 到達目標
家畜の栄養生理を知り、効率的な飼料給与の基礎知識を習得する

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
10 月 3 日	1	1 牛の栄養	栄養素（繊維とデンプン、タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル、水）
	2		消化器の構造と機能（消化および吸収のしくみ）
	3		
	4	2 飼料の特性	飼料の種類と特性（飼料の種類、飼料の特性、飼料の評価）
	5	3 飼料の給与方法	飼料の配合と給与
	6		牛の栄養状態の把握（栄養度、BCS）
	7		牛の養分要求量の算出、飼料計算の基礎
	8	試験	

- 6 使用テキスト 『家畜人工授精講習会テキスト』（一社）日本家畜人工授精師協会、配付資料
- 7 参考図書 『日本飼養標準（肉用牛・乳牛）』（公社）中央畜産会、配布資料
- 8 評価の要素 試験成績 80 %、学習態度（出席状況、提出物含む）20 %

【 家畜衛生学 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 畜産経営学科
- 3 時期及び単位数： 2 学年前期・ 1 単位
- 4 到達目標
家畜衛生学の基本を理解し、牛における主な感染症の特性と対策方法を学ぶ。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 9 日	1	1 家畜衛生学の概要 (総論)	家畜衛生の重要性、家畜飼養形態と衛生対策の変遷、家畜を取り巻く環境、家畜伝染病予防法の概要
	2	2 感染症と非感染症の基本	家畜の健康と疾病発生要因、感染症と非感染症、病原体の種類、疾病の予防対策、恒常性とストレス、非感染症の概要
	3	3 伝染病への対処	監視伝染病とその発生状況（世界・国内・県内）、特定家畜伝染病（口蹄疫、HPAI及びLPAI）への対処、人獣共通伝染病
	4, 5	4 牛飼養時に注意する感染症と対策	疾病の感染防御と免疫（ワクチネーション）、感染症（呼吸器系、消化器系、異常産、皮膚病、白血病、乳房炎）の特徴と対策
	6	5 牛放牧時に注意する疾病と対策、慢性疾病対策	放牧衛生と疾病予防対策、慢性疾病対策の事例紹介
	7	6 消毒による疾病の予防	消毒の目的、消毒の特性、消毒剤の選択の仕方と効果的な使い方、消毒実施上の留意事項
	8	試験	

- 6 使用テキスト 配布資料
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 試験成績 80 %、学習態度（出席状況、提出物含む） 20 %

【 畜産環境保全 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 畜産経営学科
- 3 時期及び単位数： 2 学年後期・1 単位
- 4 到達目標
家畜排せつ物の活用法、基礎的な衛生管理についての知識を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
10 月	1	畜産環境の現状	家畜排せつ物処理の現状と問題点、環境関係法規
	2	家畜排せつ物の基礎知識	畜種による排せつ物の特徴と排せつ量、敷料・副資材の種類と特性
	3	堆肥化の基本	堆肥化の目的、家畜排せつ物処理の理論
	4	家畜排せつ物処理方法と処理施設	家畜排せつ物の処理方法、処理施設の種類と特徴
	5	堆肥の利用	農地での利用と流通、耕畜連携
	6	汚水処理と臭気対策	畜産関係施設から排出される汚水と臭気対策
	7	事例紹介	県内外における家畜排せつ物処理施設の優良事例紹介
	8	試験	

- 6 使用テキスト 配付資料
- 7 参考図書 配布資料
- 8 評価の要素 試験成績 80 %、学習態度（出席状況、提出物含む） 20 %

【 家畜解剖生理学 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 畜産経営学科
- 3 時期及び単位数： 1 学年前期・ 1 単位
- 4 到達目標
家畜（牛・豚）の体の仕組みと機能を理解する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 9 月	1	1 家畜（牛・豚）の体の構造	家畜の体を構成する組織と器官、骨格の構造と機能、筋肉の構造と機能
	2	2 家畜（牛・豚）の消化器	(1) 消化器の区分、消化器の構造と機能（口腔、胃）
	3		(2) 消化器の構造と機能（小腸、大腸、付属器官）
	4	3 家畜（牛・豚）の生殖器	(1) 生殖器の構造と機能
	5, 6		(2) 精子形成と卵子形成
	7	4 家畜（牛・豚）の泌尿器	泌尿器の構造と機能（腎臓、尿路）
	8	5 試験	

- 6 使用テキスト 『家畜人工授精講習会テキスト』（一社）日本家畜人工授精師協会、
配付資料
- 7 参考図書 『酪農・畜産家のための臨床家畜解剖学』チクサン出版社、
配付資料
- 8 評価の要素 試験成績 80 %、学習態度（出席状況、提出物含む） 20 %

【 家畜解剖実験 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 畜産経営学科
- 3 時期及び単位数： 1 年前期・ 1 単位
- 4 到達目標
家畜の臓器、筋肉等の観察を通して、生態機構の基本を学ぶ。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 9 月	1、2	1 牛	(1) 体の基本構造と機能
	3、4		(2) 消化器（胃）の解剖
	5、6		(3) 生殖器（雄、雌）の解剖
	7～11		(4) 直腸検査、採卵（子宮灌流、 経膣）、超音波肉質診断、超音波 妊娠診断の実際
	12、13	2 豚	(1) 豚（雌）の解剖（基本構造と 機能）
	14、15	3 鶏	(1) 鶏（雌）の解剖（基本構造と 機能）

- 6 使用テキスト 配付資料
- 7 参考図書 配付資料
- 8 評価の要素 課題・レポート提出 80%、学習態度 20%

【 先進農家等留学研修 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 全経営学科共通
- 3 時期及び単位数： 1 学年前期、5 単位
- 4 到達目標

先進的な農業を実践している農業者・農業法人の経営や技術、生活を実際に体験することにより、農業に対する取組や考え方を直接肌で感じ取り、豊かな農業観や職業観を学ぶ。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
5 月 9 月	1	1 説明会	先進農家等留学研修の説明
	2	2 実施計画	実施計画の作成
	3～ (2 週間)	3 研修	実施計画に基づく研修の実施

- 6 使用テキスト 無
- 7 参考図書 無
- 8 評価の要素 実習報告書・レポート 50%、学習態度・受入農家の評価 50%

【 畜産経営研修 】

1 科目区分： 専門科目

2 対象学科： 畜産経営学科

3 時期及び単位数： 1～2 学年・2 単位

4 到達目標

県内外の先進的な取組や流通・販売、さらには関係機関や施設等を見学することにより、農業に関する幅広い知識を習得する。

5 講義内容

(1) 1 学年

時期	回	項 目	講 義 内 容
5 月	1	県内研修	生乳から牛乳への製造工程、新商品開発について、乳業会社で学習する。
9 月	3	県内外研修	畜産を取り巻く関係機関において、業務内容等を学習する。
12月	4	県内研修	肉用牛子牛の取引について、家畜市場で学習する。
2 月	5	海外留学研修 (もしくは企画研修)	

(2) 2 学年

時期	回	項 目	講 義 内 容
5 月	1	県内外研修	食品製造に関する工場等において、畜産物の加工、衛生管理、商品開発について学習する。
6 月	2	県内研修	乳用牛・肉用牛の飼養管理、農場運営、GAPや6次化の取り組みについて、県内の先進農家にて学習する。
9 月	3	県内外研修	畜産関係研究機関等において、卒論等に関する理解を深める。
11月	4	県内外研修	枝肉取引について、食肉市場で学習する。

6 使用テキスト 無

7 参考図書 無

8 評価の要素 出席状況 20%、学習態度 30%、課題提出 50%

【 飼養管理基礎 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 畜産経営学科
- 3 時期及び単位数： 1 学年前期・2 単位
- 4 到達目標 乳用牛・肉用牛の基礎知識を習得する
- 5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月 9 月	1	【乳用牛】子牛の哺育管理	ルーメンの発達と子牛の哺育
	2	【乳用牛】子牛の育成管理	子牛の育成方法
	3	【乳用牛】泌乳生理	泌乳生理と搾乳の仕組み、搾乳技術
	4	【乳用牛】泌乳生理	乳房炎の診断と対策
	5	【乳用牛】経産牛の飼養管理	泌乳期における飼養管理
	6	【乳用牛】経産牛の飼養管理	乾乳期における飼養管理
	7	【乳用牛】乳用牛の体型審査	体型の測定部位、体型審査、BCS
	8	【肉用牛】肉用牛の概要 子牛の飼養管理	黒毛和種の特徴、成長の原理、 哺乳期の管理
	9	【肉用牛】子牛の飼養管理	育成期の管理
	10	【肉用牛】繁殖牛の飼養管理	繁殖牛の繁殖管理
	11	【肉用牛】肉用牛の体型審査	体型の測定部位、体型審査、栄養度
	12	【肉用牛】肥育牛の飼養管理	産肉生理理論、肥育ステージ
	13	【肉用牛】枝肉評価	枝肉取引規格、肉質と飼養管理
	14	家畜と環境	畜舎の種類、環境の影響、暑熱・ 寒冷対策
	15	試験	

- 6 使用テキスト 『乳牛管理の基礎と応用』デーリィ・ジャパン社、
『新版 家畜飼育の基礎』農文協
- 7 参考図書 配布資料
- 8 評価の要素 筆記試験 80%、出席状況 10%、学習態度 10%

【 飼料作物 】

1 科目区分： 専門科目

2 対象学科： 畜産経営学科

3 時期及び単位数： 2 学年前期・1 単位

4 到達目標

飼料作物の種類や栽培・利用方法を理解し、地域にあった自給飼料生産技術を習得する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月	1	飼料作物生産の意義	循環型農業、飼料作物栽培の歴史
	2	飼料作物の種類と特徴	青刈作物（飼料用トウモロコシ、ソルガムなど）
	3		牧草（イネ科牧草、マメ科牧草）
	4	飼料用トウモロコシの栽培	ほ場準備、施肥、播種、収穫、維持管理、作業体系
	5	牧草の栽培	〃
	6	飼料作物の利用	採草利用（乾草、サイレージ）
	7		放牧利用
	8	試験	

6 使用テキスト 『草地管理指標－飼料作物生産利用技術編－』（一社）日本畜産種子協会

7 参考図書 配付資料

8 評価の要素 試験成績 80%、学習態度（出席状況、提出物含む）20%

【 食品製造演習 】

- 1 科目区分： 専門科目
- 2 対象学科： 果樹経営学科・畜産経営学科
- 3 時期及び単位数： 1 学年通年・2 単位
- 4 到達目標

本校及び県内で生産される園芸品目を主とした加工を行い、農産加工に関する基礎技術を習得するとともに、加工による付加価値化の意義を理解する。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
6 月 1 0 ～ 2 月	1～2	食品表示	食品表示の知識の習得
	3～4	殺菌	殺菌の方法の習得
	5～6	果実加工	ジャム加工
	7～10	畜産物加工	食肉加工（ソーセージ）
	11～12	レトルト加工	カレーのレトルト加工
	13	米加工	麴加工
	14～15	大豆加工	味噌加工

- 6 使用テキスト なし
- 7 参考図書 配布資料
- 8 評価の要素 課題提出 80 %、学習態度等 20 %

【 乳用牛飼養管理技術応用 】

- 1 科目区分： 専門科目（択一選択）
- 2 対象学科： 畜産経営学科
- 3 時期及び単位数： 1 学年後期・2 単位
- 4 到達目標
乳用牛の飼養管理技術についての知識を習得する

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
10 月 3 日	1 ～ 2	哺育・育成牛の管理	初生子牛の対処、哺育・育成期の管理
	3 ～ 7	経産牛の管理	(1) ボディコンディショニングスコアによる飼養 (2) 周産期疾病等と分娩前後の管理 (3) 飼養管理と乳質、牛群検定の活用 (4) 繁殖管理と交配計画、牛群更新
	8 ～ 9	搾乳管理	搾乳衛生、乳房炎の種類と原因及び防除
	11～12	乳用牛の飼料と飼料設計	エコフィード、稲WCS、飼料用米等の特性、TMR、飼料設計
	13	審査方法	乳牛の審査方法
	14	牛乳の衛生管理、流通	(1) 生乳生産管理マニュアル、搾乳機器の管理 (2) 牛乳等の流通体制
	15	試験	

- 6 使用テキスト 『日本飼養標準・乳牛』（公社）中央畜産会
- 7 参考図書 『家畜人工授精講習会テキスト』（一社）日本家畜人工授精師協会、
『乳牛管理の基礎と応用』デーリィ・ジャパン社
- 8 評価の要素 筆記試験 80 %、出席状況 10 %、学習態度 10 %

【 肉用牛飼養管理技術応用 】

- 1 科目区分： 専門科目（択一選択）
- 2 対象学科： 畜産経営学科
- 3 時期及び単位数： 1 学年後期・2 単位
- 4 到達目標
肉用牛の飼養管理技術における実践的な知識を習得する

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
10 月	1 ～ 3	1 繁殖牛の飼養管理	(1) 繁殖牛の栄養管理の概要 (2) 繁殖ステージごとの飼料設計
	4 ～ 6		(1) 繁殖牛の繁殖管理 (2) 分娩前後の管理 (3) 繁殖障害
	7 ～ 9	2 子牛の飼養管理	(1) 哺育期の管理 (2) 育成期の管理
	10	3 黒毛和種の登録	(1) 登録の種類と目的
	11	4 審査方法	(1) 肉用牛の見方 (2) 審査方法
	12～14	5 肥育牛の飼養管理	(1) 導入時の管理 (2) 肥育前期の管理 (3) 肥育中期の管理 (4) 肥育後期の管理
	15	試験	

- 6 使用テキスト 『日本飼養標準・肉用牛(2022年版)』（公社）中央畜産会
- 7 参考図書 配布資料
- 8 評価の要素 筆記試験 80 %、出席状況 10 %、学習態度 10 %

【 乳用牛経営 】

- 1 科目区分： 専門科目（択一選択）
- 2 対象学科： 畜産経営学科
- 3 時期及び単位数： 2 学年後期・1 単位
- 4 到達目標
酪農経営計画の作成や事例研究により、経営感覚を養う。

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月	1、2	1 酪農経営の特性	酪農経営の特性、酪農経営判断に必要な数値の把握
	3	2 経営計画の作成	酪農経営の計画作成
	4～6	3 事例研究	優良事例の研究
	7	4 GAPの実践	畜産JGAPの管理点、改善策
	8	試験	

- 6 使用テキスト 配付資料
- 7 参考図書 配布資料
- 8 評価の要素 筆記試験 80%、学習態度等 20%

【 肉用牛経営 】

- 1 科目区分： 専門科目（択一選択）
- 2 対象学科： 畜産経営学科
- 3 時期及び単位数： 2 学年後期・1 単位
- 4 到達目標
肉用牛経営事例の課題解決により、経営感覚を養う

5 講義内容

時期	回	項 目	講 義 内 容
4 月	1	1 肉用牛経営の特性	肉用牛繁殖経営の特性と経営判断 (1)肉用牛繁殖経営の特性 (2)経営判断に必要な数値の把握
	2		肉用牛肥育経営の特性と経営判断 (1)肉用牛肥育経営の特性 (2)経営判断に必要な数値の把握
	3	2 経営の見方・判断方法	(1)経営管理の基本、計画作成のポイント (2)経営計画の実践 (3)経営計画の見直し
	4～6	3 事例検討	(1)肉用牛経営の事例検討 (2)肉用牛経営に関する文献の読解
	7	4 GAPの実践	(1)畜産JGAPの概要、管理点 (2)畜産JGAP実践農家の事例研究
	8	試験	

- 6 使用テキスト 配付資料
- 7 参考図書 配付資料
- 8 評価の要素 筆記試験 80%、学習態度等 20%

VI 年間行事

各種行事のおおよその年間計画は次のとおりである。

開催月	行 事 内 容
4 月	始業式（2 学年） 入校式 オリエンテーション 健康診断 防火避難訓練
5 月	スポーツ大会 卒業論文設計発表会
6 月	植付祭
7 月	学校記念日（休業日） オープンキャンパス（7～8 月、計 3 回）
8 月	夏期休業
9 月	前期試験 先進農家等留学研修（1 学年）
10 月	櫛隆祭
11 月	収穫祭 校内球技大会 意見発表会（1 学年） 防火避難訓練
12 月	卒業論文概要発表会（学科別） 卒業論文発表会（全体） 冬期休業
1 月	東日本農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会 後期試験（2 学年） 卒業論文提出締切（2 学年）
2 月	全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会 後期試験（1 学年） 海外農業研修
3 月	卒業記念講演 卒業式 終業式（1 学年） 春期休業

◇主な行事等の内容◇

1 植付祭、収穫祭

春には農作物等の植え付けを祝い、全員で水稻の植え付けを行って豊作を願う。
また、秋には収穫を祝い、感謝する。

2 スポーツ大会、球技大会等

教育課程に基づき、体育科目の一部として年3回、学生自らが企画運営して、学生全員で行う。

3 学校記念日

本校は、福島県農業短期大学校、福島県農業経営大学校及び福島県会津農業センターの3校の統合によって、昭和63年に開校した。

これを記念した学校記念日は7月17日であり、その日の属する週の金曜日を休業日としている。

4 櫛隆祭(学校祭)

校内施設を利用して、学習成果の発表や模擬店、農産物の販売等、一般に開放し、大学校をPRする。

5 東日本農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会

将来の農業と農村のリーダーシップを担う農業大学校等学生が、営農に対する課題解決学習方式として実践したプロジェクト学習の成果や日頃考えている意見をまとめ発表する。この発表会を通じて農業への自信と誇りを持つとともに、連帯意識の高揚を期して開催する。

6 全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会

全国の農業大学校等の学生代表が、日ごろの学習活動の成果を交換・交流して友情を深め、幅広い視野を養い農業への意欲を高める。プロジェクト発表、意見発表は、東日本の代表者が行う。